

浅野誠

庭畑

2021～2022年

今回は、2021年1月から2022年9月までの、私のブログ「沖縄南城・人生創造・浅野誠」のなかの「庭畑」記事である。ほとんどが、「我が庭畑の自然」「庭たより」「我が庭畑紹介」の三つの連載を集約したものだ。この庭畑を作り始めて18年が経つ。私の人生の重要な一角を占めるまでに至った。ご一緒に楽しんでいただければ嬉しい。

2022年10月

目次

※ 新しい記事から古い記事への順で配列した。各記事タイトルにつけてある年月日は、ブログ掲載の年月日

「連載 我が庭畑紹介」 前

P6

※ 各タイトルの中の「場」は、わが庭畑を区切って番号をつけたもの・

※ ☆のついた記事は、この連載以外に、随時掲載したものである。

東通路・排水路 97場

駐車場・進入道路に接する東隣の森 96場

屋上 ドラゴンフルーツ 95場

4階ベランダ 94場

3階ベランダ南 93場

千年木 3階ベランダ西 92場

3階ベランダ東 91場

野菜・花・観葉植物 駐車場東 84場

駐車場西 プルメリアなど 83場

クロトン小 82場

トックリヤシモドキ 81場

キバナタイワンレンギョウ 78場

☆ 毎夜300個ほど開花するサガリバナ

クロトン 77場

小池 76場

オオタニワタリ 75場

岩山 74場

ドラセナ・マッサンゲアナ 73場

タイワンレンギョウ (デュランタ) 72場

オリズルラン 71場

ディフェンバキア 66場

西通路 65場

クフェア 64場

ムイクア 63場

クミスクチン タマリユウ 62場

アレカヤシ 61場

ピタンガ カニステル ライチ

ブーゲンビリア 60場

☆ 初対面のリュウキュウキビタキ 満開のティートリーとリュウキュウテイカズラ

らせん型ハーブ園 59場 (後)

らせん型ハーブ園 59場 (前)

ソテツ 58場
 シークァーサーB 57場
 ラクティア 56場
 ローレル 55場
 アマリリス 54場
 ソングオブインディア 53場
 ハイビスカス・レッドフラミンゴ 52場
 ドラセナ・コンシンネ2 51場
 壁面を覆うツタ類 50場

「連載 我が庭畑紹介」 後

P30

月桃 (サンニン) 31場
 ドラセナ・コンシンネ 30場
 クルチ (リュウキュウコクタン) 29場
 モンテスラ ライチ 28場
 サガリバナ (サワフジ) 27場
 コーヒー 第26場
 ペペロミア 第25場
 シマトネリコ 第24場
 マッコウ並木 第23場
 ホウライカガミ 第22場
 フウリンブッソウゲ 第21場
 カニステル 第20場
 ピタンガ 第19場
 レモンユウカリ (ユウカリ・シトリオドラ) 第18場
 クァンソー 第17場
 アメイシア 第16場
 メイフラワー リュウゼツラン トックリラン ダイギンリュウ 15場
 インドナツメ 14場
 キンカン 13場
 アセローラ 12場
 バンシルー (グアバ) 11場
 中心になる植物が未確定で、流動的な所 10場
 ハンギング・ヘリコニア 9場
 チシャノキ 8場
 大岩 7場
 ティートリー 6場

コーヒーの幼木 5場
 ベチパー 4場
 シークワーサー 3場
 大池 2場
 ガジュマル切り株跡 1場

庭たより

P53

ユーフォルビア類 庭たより32最終回
 コルディリネ類 庭たより31
 ドラセナ類 庭たより30
 リウゼツラン トックリラン パキラ 庭たより29
 隣の森の大木 ガジュマルの巨木など 庭たより28
 台風とつる植物による締め殺し 庭たより27
 ベストテン樹木の変化 ガジュマルと金煌マンゴアの伐採 庭たより26
 我が家の大木ベストテン 庭たより25
 庭畑の維持・バトンタッチ 大木対応 庭たより24
 ドラゴンフルーツ 庭たより23
 水管理 堆肥づくり 庭たより22
 通路づくり 庭たより21
 時間をかけない庭畑づくりへと進む 庭たより20
 中庭の観葉植物園化 庭たより19
 レッド・ジンジャー 観葉植物園づくり 庭たより18
 ウコン (ウッチン) の開花 植物間の距離と間引き・剪定 庭たより17
 ハンギング・ヘリクニア 庭たより16
 サガリバナ (サワフジ) 庭たより15
 トックリヤシモドキの花房 庭たより14
 らっきょう ニラ 庭たより13
 ハーブ繁盛の季節 庭たより12
 名護らん (着生ラン) の開花 庭たより11
 クワンソー 葉草茶 庭たより10
 季節外れが続く 台風 オクラレルカ サガリバナ ウリズン豆 庭たより9
 ティートリー (メラレウカ・スノーインサマー) の開花 庭たより8
 ピタンガの大量収穫 庭たより7
 果樹の収穫期 ビワ カニステル 庭たより6
 新葉・新芽の季節 ソテツ 庭たより5
 満開のブーゲンビリア 庭たより4
 タイム 庭たより3
 ハブ対策 庭たより2

開く花の種類も量も激増の季節へ 庭たより1

我が庭畑の自然

P80

果樹 我が庭畑の自然50最終回

キバナタイワンレンギョウ タイワンレンギョウ ゲッキツ 千年木 我が庭畑の自然49

フウリンブツソウゲ 二段咲きハイビスカス ブーゲンビリア 我が庭畑の自然48

クルチ シャリンバイ アレカヤシ ユーカリ 我が庭畑の自然47

サガリバナ マニラヤシ シマトネリコ 我が庭畑の自然46

ティートリー チシャノキ 我が庭畑の自然45

オオバナアリアケカズラ アサヒカズラ ヤハズカズラ? サンパラソル ハツユキカズラ 我が庭畑の自然44

シッサス スイカズラ リュウキュウテイカズラ ニンニクカズラ 我が庭畑の自然43

マッコウ 着生らん ホヤ(サクララン) 我が庭畑の自然42

ラクティア 花キリン コーヒー 我が庭畑の自然41

観葉植物10 ザミオクルカス ベディランサス(ダイギンリュウ) リュウゼツラン 柱サボテン 我が庭畑の自然40

観葉植物9 サンセベリア ハンギング・ヘリコニア セイロンベンケイ セダム 我が庭畑の自然39

観葉植物8 アロエ カランコエ レッドジンジャー コレウス 我が庭畑の自然38

観葉植物7 ディフェンバキア ポリッシュヤス モンテスラ 我が庭畑の自然37

観葉植物6 アグラオネマ キキョウラン オリズルラン ペペロミア ポトス 我が庭畑の自然36

※ この連載の1～35は、「庭畑2019～2020」に収録されている。

我が庭畑紹介 前

2022年09月21日

東通路・排水路 97場

一年続いた連載も、ようやく最終回。

東隣の森は、巨大墓を囲む森で、戦禍を経て、戦後成長して来たと思われる亜熱帯林だ。自然の中を逞しく生きている植物なので、はみ出してくるのも多いが、こまめにカットするしかない。台風後に、我が敷地に散らばる枝葉も半端ない。そして、沢山の種がちらばり、新芽が出てくるが、一つひとつ取るしかない。森に囲まれて住んでいる「税金」のようなものだろう。

森に育つ小動物や昆虫が、我が敷地に遊びに来ることは日常風景だ。

境界壁に沿って、排水路と下水管がある。ほっておくと、落ちた大量の枝葉などがたまって大変だが、1～2ヶ月に一回清掃すれば、なんとかなる。下水管は、隙間から、森からの根が侵入して、使用不能になり、工事で陸上設置にした。



写真は、2年ほど前の工事直後のもの



2022年09月15日

駐車場・進入道路に接する東隣の森 96場

駐車場や進入道路は、隣の森に接しているなので、必要最小限の作業をしている。駐車場や道路を大木の枝がおおってしまったたり、電線が危うくなるからだ。美観も気になることがある。1～2ヶ月に一回は作業をしている。

マイナス面だけではない。借景として活躍していただいてもいる。

森にはガジマル オオバギ アカギ ソテツ ハゼノキ クロヨナ・クロキ・ギンネムなど自生の植物がたくさんだ。コウモリ、イソヒヨドリ、鳩などの鳥もいるが、近年カラスが沢山やってきて、小鳥類は他の場所に避難している。

前ページ写真は、屋上から見た、駐車場と隣の森の一端

2022年09月09日

屋上 ドラゴンフルーツ 95場

屋上は、太陽光発電のパネルが覆っているが、それがなくて、ドラゴンフルーツを十数鉢で育てている。ここに住み始めた当初に隣家からいただいた枝を挿し木で殖やしてきたものだ。赤い実で、果実も赤くて甘い。毎年実を付けている。なぜか満月か新月の時に、馬鹿でかい白い花を咲かせる。夜8時開花、朝には萎む。その間に、隣の森からやってくる昆虫が授粉する。開花後20日ぐらいいして、実が赤くなり、食べられるようになる。毎年30～50個ほど収穫している。熟したことに気づかないうちに、コウモリや鳥に食べられることもしばしばだ。

50年近くのつきあいになる知人がドラゴンフルーツ農家をしているので、いろいろと教えてもらった。

でも、冬場に堆肥を与えて、古くなった枝葉を取り、草取りをするくらいだ。水やりはすべて自然にお任せしている。



2022年09月03日



4階ベランダ 94場

この連載も満一年経つが、まもなく終了予定。今日は台風で、写真の植物の隙間から見える太平洋は大荒れ。猫たちは、外出できないので、欲求不満。このベランダでも昼寝をよくするが、今日はできない。

4階の私の書斎前にも小さいベランダがあ

る。大きな鉢をいくつも置いて、日よけ効果も兼ねて植物を育てている。

千年木、ドラセナ・マッサンゲアナ、コルジリネ、サンセベリア、ソングオブインディアである。

加えて、手すりの柵に、ツル性のサンパラソル、アサヒカズラ、ヤハズカズラを伸ばしている。アサヒカズラは、赤い小っちゃい花が沢山咲く。ヤハズカズラは黄色い花を沢山咲かせる。

2022年08月28日

3階ベランダ南 93場

3階ベランダの南側には、幅広の深い溝があって、落ちないように板を渡してある。板を外したところに、大鉢を3個置き、フウリンブツソウゲ、ブーゲンビリア、ラクティアを育てている。他にレモングラスもある。

ベランダの手すりには、ツル性のサンパラソル（マンデヴィラ）、雲南百薬がはっている。数年前から始めたサンパラソルは、大量の印象的な花を咲かせているので、遠くからも見える。かつては地上から上ってきたブーゲンビリアの大量のピンク花がシンボルカラーだったが、今、サンパラソルのピンク色に代わりつつある。



サンパラソルは、白から真紅までのいくつもの種類があるが、うまいっていいのは半数に満たない。でも、愛らしい

ので、我が家に合うもの2～3本にしぼって育てている。

雲南百薬は、ツルムラの仲間である薬草だが、夏の葉野菜がきれるころに収穫して食べている。強い植物だ。

ラクティアは、土と日当たりがよいためか、成長がいい。挿し木したのだが、元の親の木を追い抜きそうな気配だ。



2022年08月22日

千年木 3階ベランダ西 92場

ベランダ西側には、千年木を植えた大型鉢を8個置いている。直射日光が室内に入るのを防ぐためだ。そこに育つ20本足らずの千年木で、十分役割を果たしている。千年木は、発芽から5年ぐらいうると3～5メートルの高さになり、

伸びがゆっくりしてきて、幹も細くなり、台風などで、いずれ倒れる。そこで4~5年経った幹は根元から切る。すぐに新芽がいくつも出てくるが、一つに絞り育てていく。1年経つと、1~2メートルの高さになる。こうして更新しながら、日よけ効果を10年余り維持してきた。

千年木の根元には、フーチバー、ボルトジンユ、ペントス、日日草などを育てている。ペントスも日日草も、3~4種類の色の花で、ベランダは一年中花盛りだ。

2022年08月16日

3階ベランダ東 91場

3階ベランダは、10畳余りの広さがあり、海を見渡せる絶景だが、コンクリートのままだと、照り返しがきつい。そこで、緑で半分以上をおおっている。

まず東半分には、野菜を育てるプランターがいくつかある。そこに猫が入ってトイレにするのが好きなので、防ぐために網を張っている。網は、四方に大型の鉢を置いて紐で引っ張っている。その鉢には、千年木、ガジマル、ユズ、ランタナ(七変化)などを育てている。ガジマルは、大型の盆栽風に仕立てているが、たいしたことはない。

プランターは野菜主体だが、ハーブも育てている。野菜は季節によって異なるが、現在育てているものを紹介しておこう。



ミント ステビア ローズマリー ルッコラ
ネギ モロヘイア シソ(大葉) ネギ ハンダマ ニガナ シ
マナ

他に、クロサンドラも育てている。



2022年08月10日

野菜・花・観葉植物 駐車場東 84場

83場と同じく、いくつかの鉢とプランターがある。ただ並べてあるという感じなので、今後美的配置に工夫が必要だろう。背景に

写っている名入りのシーサー、オオバナアリアケカズラ、フウリンブッソウゲを生かした配置が必要だろう。

鉢 日日草 ラクティア プルメリア

いずれも強い植物なので、繁殖が簡単。一年で1m近く伸びる。

プランター ニラ ネギ ハンダマ 猫の野菜（エンバク） アマリリス

ついでに、玄関脇においてあるいくつかの鉢の植物を紹介しておこう。

サンセベリア クロトン 日日草

2022年08月04日

駐車場西 プルメリアなど 83場

駐車場はアスファルト舗装なので、そのままでは殺風景だ。そこで、端に鉢やプランターを置いて、緑と花色で緩和している。

西端には鉢を7～8個並べて育てている。駐車場から自動車が落ちるのを防ぐ柵の意味もある。

キバナタイワンレンギョウ、ミニバラ、レースラベンダー、コモンセージ、コモンタイム、日日草、クロトン、ダイギンリュウ、プルメリアなど。

写真のプルメリアは、近隣の人から頂いた枝を挿し木して、一年がたつが、昨年、既に開花し、今年もたくさ



ん開花している。すでに高さ2mと順調な生育だ。

2022年07月29日

クロトン小 82場

前回の81場と橋を隔てた反対側の傾斜面だ。コンクリートで覆ってあったが、ひび割れて地面がむき出しになった。土が流れ出ないように、クロトンと大雲閣(写真)を植えた。順調に伸びているが、まだ高さ1m足らずだ。

現在は、71場から伸びてきているオオバナアリアケカズラが、橋の柵を伝って大

きくなっており、その陰になっている。しかし、いずれ大きくなって、81場のトックリヤシモドキと大雲閣と対になって、玄関番になってほしい。

ついでに、橋の東側の柵に沿っている植物名をあげておこう。

ムイクワ（ジャスミン・マツリカ） オオバナアリアケカズラ クロトン 大雲閣 ミルクブッシュ イルカンダ ドラセナ・マッサンゲアナ

2022年07月23日

トックリヤシモドキ 81場



玄関への橋の駐車場側の西の場だ。建物を建てる18年前から、トックリヤシモドキを植えたかった。幹の美しさに惹かれたからだ。苗店で見つけて即座に買って植えた。当初は数十センチの高さだったが、今は4mほどだ。丸々としているが、トックリ形のトックリヤシとは違って、スラッとしている。幹だけの高さは150cmぐらいだ。

毎年5～6本の葉が出てくる。1年半ほどで、落ちた葉のあとから、花の房がでてきて、開花後、沢山の実がつく。

現在、葉が9本、花房が8本だ。

出てくる葉の柔らかい部分を虫が食べる。そこで、時々木酢液をかけて防ぐ。最近も新葉が根元を食べられて折れた。写真は、折れた跡の姿（写真中央部分）。でも、下から一日に5cmの勢いで伸びてくる。木酢液をかけたから、多分大丈夫だろう。

他に、ムイクワ（ジャスミン・マツリカ）を育てて、橋の柵に沿わせている。香りのいい花を咲

かせる。さんぴん茶の原料だ。

さらに、クロトン一本を植えている。そして、大雲閣を一本植えている。

2022年07月17日

キバナタイワンレンギョウ 78場

中庭西側の建物近くだ。中心はキバナタイワンレンギョウで、大きく育ち、やがて5メートルに近づくだらう。台風で根元近くから2度折れたが、



不死鳥のようによみがえってくる。各地の公園や庭に植えられているポピュラーなものだ。隣地との垣根の役割も果たしている。一年に1m以上伸びるほど、生育スピードが速く、頻繁に剪定しなくてはならない。

その近くには、日照が悪いのをものともせず、いくつも育っている。タイワンレンギョウ、クロトン、ドラセナ・コンシンネ、千年木、オオタニワタリなどで、垣根の役割も果たしている。その中に、クルチが一本。建物建築中の足場に踏みつけられていたものだが、知らぬ間に伸びてきている。といっても日照が悪いので、ひよろひよろだ。

2022年07月15日

☆ 毎夜300個ほど開花するサガリバナ

10年余り前に買った苗木二本が、いまでは5~7mの高さになり、堂々たる樹木になっているが、毎夜の開花がす



ごい。一本の木に数十本の房が垂れ下がり、一本の房の数個が開花する

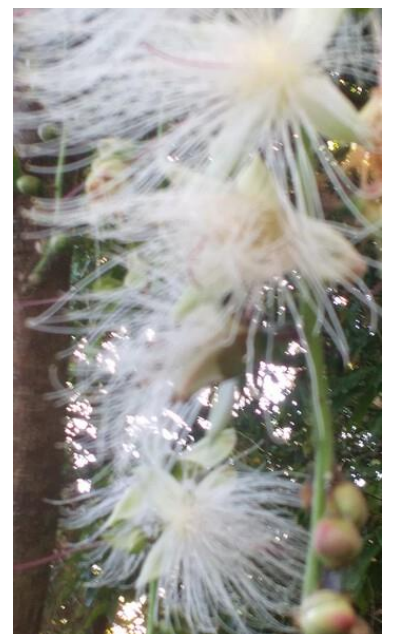
ものだから、大変な数だ。朝落ちる花の数も尋常でない。美しいから片付けないけど。

毎年6月頃から咲き始めるが、今年は4月から咲いている。12月初めまで咲くが、

正月まで咲いた年もある。

夜暗くなるころから開き始め、朝7時頃になると、落ち始める。

花が美しいだけでなく、匂いもすごい。





2022年07月11日

クロトン 77場

中庭西側の奥で、隣地との境に植えたクロトンが大きく育っている。高さ4m近い。その内側の地面には、ムラサキオモト、月桃、ポトスなどがある。この場の半分は、橋の下で雨がふらないので、植物環境にはよくない。そこで、現在改良中だ。完成は2年後ぐらいか。

最近、崎原さんからいただいた5本のチランジア・ウスネオイデスの内2本を、クロトンの枝にぶら下げている。他の3本は、72場のタイワンレンギョウの枝にぶら下げている。

なにもしないで育つおもしろいものだ。以前、チランジアの異なる種を育てていて失敗したが、ウスネオイデスは初めてだ。いまのところ順調だ。

写真の手前が、81場のトックリヤシモドキの花・実、その奥

に赤っぽいクロトン、さらに奥には78場のキバナタイワンレンギョウ

2022年07月06日

小池 76場

中庭の手前の小池で、グッピーを育てている。数十匹が元気よく泳いでいる。その周りの地面は、観葉植物だらけだ。

モンテスラ、マドカズラ、サンセベリア、ペペロミア、コルディリネ、セダム、セローム、ヒメモンテスラ（最近植えたばかり）などだ。そして、名称不明のシダ類がある。

土が悪いので、現在、コンポストで堆肥制作中。一年後には、美しい場をしたい。



2022年06月29日

オオタニワタリ 75場



中庭中央の奥。オオタニワタリが元気で葉を伸ばしている。直径1mは越しそうだ。数年後には、中庭地面の女王になりそうなオオタニワタリが、数本ある。

その奥に、前々回紹介したミルクブッシュの幹と根があるが、その後ろに、昨年、川端さんから頂いたイルカンダがあり、もう今春開花した。黄色が印象的でランのような花だ。梅雨時の多雨で大きく伸びて、上の橋の柵にいっぱい巻き付いている。

他に、クロトン、サンセベリアが何本も育っている。

最近、セローム（ヒトデカズラ）を植えた。初めてなので、目下観察中だ。

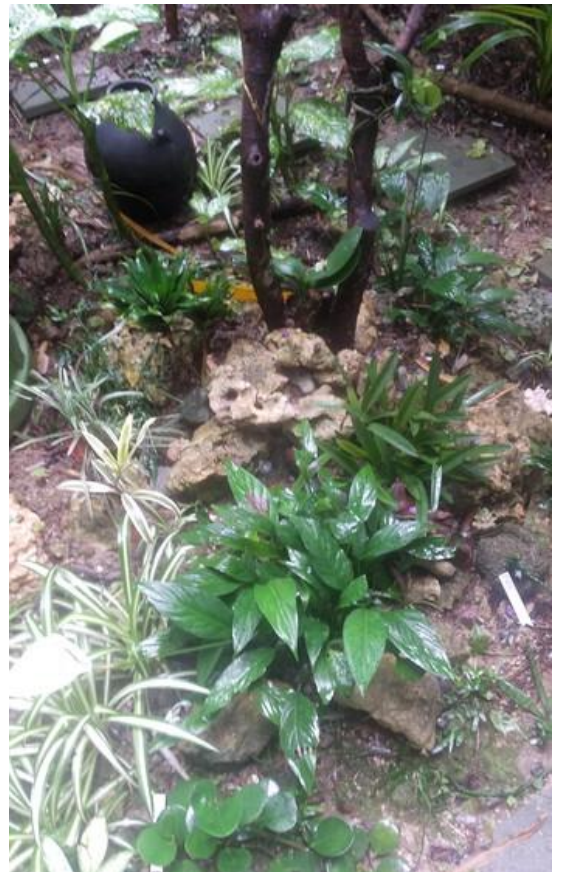
2022年06月23日

岩山 74場

中庭の建物寄りで、中庭の中心に位置する。庭から掘り出した20～40cmの大きめの石をいくつも並べて、岩山風のものを作った。以前南側の庭に植えていて伐採したビワの幹に着生ランを着けていたが、その幹をこの岩山の中央に置いた。名護蘭ともう一つの2種類のランだが、もう一つはうまくいってない。その傍らに、半年前に購入して室内鑑賞を終えたランを移した。

その周辺にも、もう一つの着生ラン、ドラセナ・コンパクト2株、トックリランを育てている。この場も、日当たりに恵まれないので、成長が芳しくない。といっても、元来成長が遅いものたちなので、気長に待つしかない。

他に、ディフェンバキア、スパティフィラム、オリズルラン、アグラオネマ・シルバーを育てているが、これらは元気よく伸びている。他に、ユキノシタ、ナヌス、ペペロミアなどを植えている。



2022年06月21日

ドラセナ・マッサンゲアナ 73場



中庭の傾斜のやや上方の場。さまざまな観葉植物が育っている。一番大きいフウリンブッシュは、観葉植物ではないが、高く伸びており、まもなく5メートルを越すだろう。庭全体で3本育てているが、このものが我が庭最大。大きいので、剪定管理にかなりの時間がとられる。

ついで大きいのは、ミルクブッシュ。十数年前に新築記念で、どなたかにいただいたものだ。高さ4m近くで、玄関に至る橋の脇を越えて大きく伸びている。奇妙な植物で、当初名称不明だったが、ブログをご覧になったかたに教えていただいた。通販サイトで見ると、小さな鉢でも5000～10000円するので、巨大な我が家のものがいくらになるのか、想像外だ。これまたユーフォルビア属で、毒を含んでいるらしい。ここには、以前、ミフクラギ(リュウキュウキョウチクトウ)を育てていて、巨大になったが、毒があると言うので、伐採した。ミルクブッシュも毒性だが、また切るのは面倒なので、伸ばしている。

もう一つの樹木は、ドラセナ・マッサンゲアナで、現在高さ3m余り。幹と葉の美しさが魅力的だ。剪定して挿し木し、この場に4本育て

ている。他の場にも10本ほど育てている。人気があって、贈答品になるようだ。私たちの物も贈答されたものだ。これらの木々の間に、黄色い葉のクロトンを2本育てている。

以上の樹木の下地表面に育っているのは、スパティフルム、ポトス、ユキノシタ、ナヌス、オオタニワタリだ。以前は、ヤブコウジも育っていたが、植物戦争に敗れて、枯れてしまった。

スパティフルムも頂き物だが、株分けして、現在3株育つ。水芭蕉のような白い花に人気が集まる。

ユキノシタは、美しいが、他のものに負けそうな感じだ。大切に守ってあげたいが、うまくいくかどうか。

ポトス、オオタニワタリは、繁栄余りある存在だ。ナヌスは、最近挿し木したばかりだが、なんとか育ちそうだ。

写真 左下 マッサン 左上 ミルクブッシュ 右上 フウリンブッシュ 右下 デュランタ 下中 クロトン

2022年06月11日

台湾レンギョウ (デュランタ) 72場

前回71場の南側に位置し、建物に隣接する斜面で、東側通路に沿っている。樹木が2本ある。その一つの台湾レンギョウ(デュランタ)で、紫の美しい花を沢山咲かせる。北隣73場のフウリンブッシュと競合しているが、灌木なので、それほど高木になりはしない。

台湾レンギョウに接して高く伸びているのは、ドラセナ・コンシンネ。一番高い所は5mを越している。合計1本の幹?枝?が伸びている。つい最近、新枝が一本出始めていることを発見。近隣の庭にも、これを植えている所が多い。美しく特徴的な幹枝葉だ。

この2本の樹木と建物のために地面近くは、全く日が差さない。そのため、マッコーとポリシヤスは、かろうじて命を保っている印象だ。

地面近くには、シュロガヤツリ、ペペロミア、ディフェンバキア、コルデイリネ、アグラオネマ・レッドを育てている。

写真は、3m上の玄関への橋の上から撮影



2022年06月05日

オリズルラン

71場



ここからは、中庭の場だ。東通路の脇に、レンガで囲ったところが71場で、玄関の橋にまで伸びて成長しているオオバナアリアケカズラの根っこがここにある。強い植物で、枝葉の6～7割を切る強い毎年の剪定にもかかわらず、元気よく育ち、5～12月と大量の花を咲かせている。

オリズルランを大量に育てている。ランナーの先を地面につけるだけで、殖えていく。これがリュウゼツラン科に分類されているとは驚きだ。

オオタニワタリは、胞子があちこちに落ちて、新しいものを庭のあちこちに作るが、ここにも2本育っている。

「川端ラン」 名称不明だが、卓球仲間の川端さんからいただいたので、「川端ラン」と呼んでいる。年に2～3回咲く。株分けすると、すぐに根付いて殖えていく強いタイプで、庭の数か所に着生させている。

2022年05月30日

ディフェンバキア 66場

西通路をのぼっていくと、建物との間にちょっとした空間がある。そこに、植物を植えたが、全く日が入らない所で、それでも育つものばかりだ。

大半は、ディフェンバキアで、10本近くが、高さ30～50cmほどに育っている。

キバナタイワンレンギョウが一本。10年ほど前からあるが、条件が良くないので、かわいそうだが仕方がない。

ツワブキもそだっているが、条件が悪いにもかかわらず、ほぼ毎年咲いている。



2022年05月24日

西通路 65場

建物の西側に沿って通路がある。急傾斜を上っていくと、2階和室前の中庭に着く。通路に沿って、隣地との境界があり垣根風に植物を育てている。

垣根は、千年木とクロトンが中心。他にソング・オブ・インディア。そして、フウリンブツソウゲ、マキ、マニラヤシ、キバナタイワンレンギョウ、オオタニワタリなどが育っている。その向こうは、隣の森だ。

マキは、どこからか種がきて、育ってきたものだ。おそらく鳥が運んできたものだろう。庭畑の数か所で、高さ5～10cmのものが何本かあるが、このものが一番大きくて、いまでは60cmを越す。そのうち、日当たりが良い所まで伸びると、ぐんぐんと大きくなるだろう。

マニラヤシは、15年ほど前に、買ってきた苗を植えたもので、今では高さ6m以上になり、建物の3階にまで達している。あと10年位すると、屋上にまで達するだろう。スラッとして美しい姿だ。葉が10本余りになると、古くなったものが自然に落ちる。

昨年末に、実の付いたものを、新しい隣人に差し上げた。

2022年05月18日

クフェア 64場

ここは庭の西北端。建物一階の出入り口近くだ。建物外側の通路の入口にもなっている。

クフェアは、最初にこの場に植えたが、その後あちこちに広がっている。端の千年木の垣根とハブ除け網の手前にマッコウが大きく広がっている。写真はマッコウが中心になり、手前にあるクフェアは写っていない。

かつては、サルスベリや金のなる木もあったが、圧倒されてしまった。サンダンカがかろうじて残っている。

千年木に着けた着生ランが現在開花中。私の「お気に入り」で、毎年開花してくれる。



2022年05月12日

ムイクア 63場

ムイクアは、ジャスミン・マツリカのシマ言葉だ。花はさんびん茶の香りつけに使われる。白と紫の花が咲く。ツル植物なので、ロープを渡して広がるようにしている。

ムイクアの隣には、ナンテンがある。現在2メートル近い。現在開花中。もう少し大きくなると、赤い実をつけるようになるだろう。



東村で数年前に買ったアマリリスをここに植えた。しばらく虫にやられて苦労していたが、ようやく落ち着いて、毎年開花するようになった。

ディフェンバキア数本、リュウゼツラン2本、クフェア数本も育っている。

ここにも、千年木とハブ除け網

写真は、ナンテンの花

2022年05月06日

クミスクチン タマリユウ 62場

2～3年前までは、ビワが立派に育ち、実をいっぱい収穫していたが、弱ってきたので、伐採した。お陰で日当たりがよくなり、根元にあったクミスクチンなどが元気よく育っている。タマリユウも一面に広がっている。

ほかに、クールミント、バナナミント、ムラサキオモトなどが育っている。西端には、千年木の垣根とハブ除け網がある。千年木の一つに着生ランを育てているが、そこにオオタニワタリがくっついてしまった。



2022年04月30日

アレカヤシ 6

1場

上の庭と下の庭を仕切る石垣に沿って、上の庭の西端に位置する。

アレカヤシは隣人から頂いた株だが、10年を越して、現在高さ5m。たくさんの幹が育ってくるが、3本に限定して伸ばしている。

サンダンカ こぼれ種でどんどん増えている。

隣地との境界から1m以上離れた場所に、千年木を垣根状に植えて、そこにハブ除け網を設置している。

他に、オオタニワタリの変種を植えている。

石垣の下で隣接している27場で育っているライチの幹や枝が伸びて、この61場を覆い、日陰を作っている。そのため、あじさいやローレルなどは別の場所に移植した。



2022 年 04 月 28 日

☆ ピタンガ カニステル ライチ

いよいよ果物の季節だ。

ピタンガ 4月中旬から収穫開始。ここ数日は、毎日100～200個。おそらく5月上旬まで続くだろう。昨年爆発的に3000個も収穫したが、今年も引き続きだ。一本の木からの収穫だが、他に2本も数個だけだが、収穫スタート。来年からはどんでもない数になるだろう。

鳥も食べに来るが、小さいので、中心は毛虫やナナフシなどの虫だ。でも、100個の一つぐらいしか被害はない。

近所をはじめ、ことあるごとに贈呈しまくっている。ジャムにしてはどうかというアドバイスもあるから、試みるかもしれない。



カニステル
1月頃実を付けたが、そろそろ色づきが始まり、収穫が近づく。これは、昨年沢山収穫したが、今年は隔年現象のためか、20個余りが、

まもなく収穫だ。



ライチ 今年は、異常なほどたくさんの実がついている。多分数百個を5月末から6月にかけて収穫することになるだろう。写真は、幼果段階のもの。好きな方は、そのころいらしてください。

2022 年 04 月 24 日

ブーゲンビリア 60場

テラスに沿った場。テラスから降りる階段の東側が50場で、西側がここ60場だ。地下水の水路の関係で、湿気がやや強い。

中心はブーゲンビリア。住み始めた直後に購入苗を植えた。ぐんぐん伸びて、最高時には高さ10mぐらいで、3階ベランダでたくさん開花した。その枝を支えるのに苦労した。支えきれなくて、その後高さは4mぐらいにしているが、なお元気だ。美しいピンクの花を、ほぼ常時咲かせている。



その途中で着生ランを着けてかなり経ち、繁殖してはいるが、なぜか開花しない。

木立アロエ かなりの年数がたつもので、引っ越しの際にもってきたから、「樹齢」20年を越すだろう。高さ1mで抑えるために、途中で剪定している。倒れそうになるので、階段に括り付けている。時々葉を切って活用する。

アグラオネマ・レッド 庭のあちこちに植えているが、油断していると、周りのドクダミやメキシカン・スイート・ハーブなどに覆われてしまうので、時々、空間確保を助けてあげる。

リュウゼツラン 数年前に株分けで植え、現在高さ30cm

サンダンカ 背が高くなるタイプをブーゲン近くに植えた。ブーゲンの花が付くあたりのところで、高さを抑えている。

タマリユウ 広々と縁取りの役割を立派に果たしている。

セダム タマリユウの内側の地表を広く覆っている。サンダンカ・ユリ・リュウゼツランの根元も覆っている。

サンセベリア ブーゲンの根元近く、床下までの広い場所に数十本育っている。

ユリ 随分以前に植えたものだが、毎年4月終わりに数本開花している。

ポリッシュヤス テラスの床下に植えたのだが、大きくなり、日当たりを求めて斜めに伸びている。

クフェア 隣の64場のこぼれ種から育ってきた。

ドクダミ 床下に植えたのだが、抜群の生育力が、どんどん広がるものだから、どんどん処分している。

2022年04月22日



☆ 初対面のリュウキュウキビタキ 満開のティートリーとリュウキュウテイカカズラ



始めて出会う鳥。リュウキュウキビタキ。猫が森で捕らえて持ち込んだようだ。まだ元気なので、撮影後すぐに森に返す。

こんな美しい鳥なのに、出会いは初めて。名前を図鑑で探し、かなり時間をかけて同定できた。少なくなっているらしい。

なぜか昨年だけ咲かなかったティートリー（正式名称 メラレウカ・スノー・イン・サマー）が、今年は、これまでにない満開だ。高さ7m近くの樹木の上部全体にわたって、真っ白。広がりには6～7メートルはあるだろう。近くの海岸からも見える。奥武島からも見えるはず。開花して10日余りで満開状態。

4月末には散ってしまうだろう。15年前に苗から、私が植えたもの。沖縄でも滅多に見られないようだ。写真の左側に映るのは、レモンユーカリ、右側はシマトネリコ いずれも高さ6～7メートル

リュウキュウテイカカズラも満開状態。数年前に植付けたが、今年は最高状態。4月いっぱい鑑賞できそうだ。（上左写真）



2022年04月18日

らせん型ハーブ園 59場 (後)

前回紹介の続き。

ナヌス（右写真の下側） ここに住み始めた頃、どなたかにいただいたも

のを地植えした。着実にしっかりと成長し、高さ30センチ余りで密集して広がっている。挿し木で別の場所でも育てている。名前を調べるのに苦労して、最近やっと判明。正式名称は、ペディランサス・ティティマロイデス ナヌス ダイギンリュウ（前ページ写真の上側） これもまた、贈呈物を地植えにしたものだが、繁殖している。高さ60cmぐらいで、堂々としている。全体としては緑だが、生育期には先端が赤になって印象的だ。

ハナキリン 畑に植えていたが、周りの樹木が大きくなって、日陰になってしまった。そこで、今年初めに日当たりのよいここに移植した。早速、新しい茎葉が出てきて、花も色づきがよくなっている。

ナゲシコ 長年、愛して栽培してきた。育てているベランダ鉢がいっぱいになったので、ここに移植した。今も満開状態。

ローズマリー 木立性のものだが、最近少々元気がない。そこで、堆肥を沢山投入したら、元気を取り戻してきた。現在高さ70cmぐらい。

クリーピングタイム 2、3年間3階ベランダの鉢で育てた後、ここに移植する。タイムは失敗を繰り返したが、これは長生きしそうだ。ハーブティーにいれると、味にぐんと深みを与える。

アジサイ 伊豆見の饒平名アジサイ園で購入した苗を育てていたが、土質が良くないためだろうか、元気がなくなってきたので、昨年ここに移植した。最近ようやく元気を取り戻してきた。

レモン 以前に育てていて、着果しそうにまで大きくなったが、なぜか枯れてしまった。再度挑戦して、今年の初めに植えた。期待している。

ボッグセージ とても強いセージの仲間。湿気のある所を好むタイプ。植えてある場所は、以前は池にしていたところ。元気が良すぎて、他の植物の場所まで侵入してくるので、頻繁にカットしている。小さく青い花が美しい。

レモングラス 湿気のあるこの場所に、庭ベランダから移植して半年。今の時期は季節変わりで、生え変わっている。

他に野菜を2～3種類育てている。

2022年04月13日

らせん型ハーブ園 59場 (前)

庭の中央の特等席のもう一か所。「らせん型ハーブ園」として、10年ほど前に作る。土を掘り出して、厚さ50cm近くになる大量の枝葉を埋め込んで作る。中央をやや高くし、外にいくにしたがって徐々に低くし、崩れ止めの大石をらせん型に配置する。外側が低いので、水を求めるもの、中央付近は乾燥に耐えるもの、日当たり具合も、位置によって異なるので、条件に合うものを植える。有機物を大量に入れたので、ここに植えた植物は元気がいい。

中央から外側に向けて順に紹介していこう。種類が多いので、二回に分けて紹介しよう。

大雲閣 隣家と植物交換でいただいたのは10年以上前。どんどん大きくなるので、ここに移植したのは5年ほど前。通称、柱サボテン。よく調べると、これまたサボテンではなくユーフォルビアだ。似たものが多いので、色々と調



べたが、どうやら大雲閣であることが分かったのは、つい最近のことだ。現在2メートルぐらいの高さだが、何本もに枝分かれしている。強い台風が来ると折れるが、倒れたものを挿し木すれば、元気よく成長していく。花はまだ見ていないが、いつか咲くだろうと期待している。

マウンテンミント 大雲閣の根元に広がる。ミントの仲間なのかと疑うほど、針金のような茎に硬い葉だが、香りはミントっぽい。味も濃い。

クリーピング・ローズマリー ローズマリーは何度も失敗した。そのなかで生育期間最長になるのがこれで、10年近くになる。土の栄養状態と水分が適切でないと、失敗するデリケートな植物だ。見た目は強そうだが、味が濃くて、私のハーブティーの主素材の一つだ。

シラン 数年前に植えたが、今年初開花。地味だ。

ミニバラ 通常のバラを育てるには、手間暇かけることが大切だが、ミニバラは放置していても、元気よく育ち開花してくれる。ここには、昨年3株植えた。まだ小さいが、美しい花を繰り返し咲かせてくれる。

ミント数種類（オレンジ、ペパー、コルシカ、クールなど） 繰り返し植えて、放置しているので、雑草のように、時々顔を出してくれる。

2022年04月08日

ソテツ 58場

庭の南部で、石垣の上に沿っている場だ。中心にあるのは、ソテツだが、最近ではサンダンカが種こぼれで広がり、大きく広がっている。ソテツは15年ほど前に敷地内で発見した幼苗を植えたもので、今は1.5mほどの高さ。3～4本育っていたが、一本が大きくなって、他は陰に隠れてしまった。雄花の美しい形を4～6月に見せる。幹には着生ランを育てている。

サンダンカは、二種類植えたが、種こぼれの子や



孫が何本も育ち、列をなしている。高さ1.5mほどだ。赤い花が印象的だ。サンダンカの東端に大雲閣が一本たっている。

地表近くは、ハツユキカズラが繁茂している。新芽新葉がでるころが美しい。それに混じってツルニチニチソウが広がる。

他に、サンセベリア、セイロンベンケイもある。



2022年04月03日

シークァーサーB 57場

庭の最南部で、少し突き出た位置にある。サンセベリアを20～30本余り育てているが、その中から、数年前植えたシークァーサーが大きく伸び始めているので、これが、この場の主木になる日も近い。条件がよいので、今年か来年かぐらいに着果しそうだ。下の庭からのロープを伝ってホウライカガミのツルが伸びてきている。

以前に植えたクミスクチン(猫のヒゲ)も顔を出している。3～5月と、猫のヒゲそっくりの白く美しい花が沢山咲く。他にセイロンベンケイも多い。

2022年03月28日

ラクティア 56場

庭中央の特等席。その中央にラクティアが鎮座している。10年ほど前にいただいたものが大きくなり、ここに移植して4～5年になる。現在高さ1.5m近く。この木の子どもや孫をあちこちに植えている。挿し木すれば、ほぼ成功する。多くの人にも差し上げた。数年前から、マハラジャという商品名で販売もされている。正式名称は、ユーフォルビア・クリスタータ・ラクティア。

奇妙奇天烈(キミョウキテレッツ)な姿に重量感が加わる不思議さが人気を高めている。



ここには、ピンク色の大輪ハイビスカスを以前から育てている。しっかり根付き、花をいつも、とっていいくらいに咲かせている。

他に、ゼラニウム、タイム、ステビア、ミニバラを隙間に育てている。

2022年03月22日

ローレル 55場



ウッドデッキへの階段に接したところに55場がある。樹木類としては、ローレル（ベイ、月桂樹）、ミニバラ、ピタンガがあるが、まだ高さ1～2mだ。リュウキュウハギもあるが、すぐそばにピタンガが伸びてきているので、やがて消滅しそうだ。ピタンガはこぼれ種から成長して来たものだが、場所がいいので、そのまま伸ばしている。今年から着果しそうだ。他の場と合わせて3本で、我が家だけでは収穫しきれないので、おすそ分けがたくさんできそうだ。

ローレルは以前の方が、他の樹木が大きくなって日陰になってきたので、ここに移植した。移植後2～3年たち、ようやく安定して成長し始めた。

他にレモングラス、リュウゼツランを育てている。

2022年03月16日

アマリリス 54場

上の庭の一角で、以前バナナを植えていた。バナナ後、いろいろなものを移植した。

アマリリスは前所有者が球根を植えて、残していっただろうと思う。近隣にもあちこちにあるから、集落で一時期流行したのだろう。庭のあちこちにあったものを、ここにまとめた。植えっぱなしにしているためか、球根が馬鹿でかくなっている。春が進むと開花し始める。色鮮やかな大輪だ。

昨年、購入苗のメラルーカ一本を植えた。現在高さ40cmぐらい



だが、大きくなるのが楽しみだ。他にカランコエ、ラクティア、セイロンベンケイを植えている。カランコエは、熱帯植物の雰囲気漂わせ、2月ころ鮮やかな色の花を咲かせる。

2022年03月10日

ソングオブインディア 53場

上の庭の端の石垣に沿って続く場だ。ここで目につくのはソングオブインディア。これまたドラセナの仲間。挿し木で殖やしてきた。今は垣根状になっている。あちこちで殖やしたので、今は無数状態だ。生育スピードが速いので、剪定を繰り返している。黄と緑のツートンカラーの細長い葉が特徴的だ。花は地味だ。



コデマリがあるが、生育条件がよくないためか、殖えもせず衰えもせず。白い「まり」のような花が美しい。

ニンニクカズラはほとんど伸びて、50場にまで達し、さらに高さ5～6mにまで達している。強烈に明るい花が大量に咲く。ニンニクに近い匂いはあるが、激しくはなく、苦にならない。

サンダンカが何本もある。落ちた種から、新しいものが出てきて増えるためだ。

ハママーチは、自生の薬草だ。場を転々として、ついにここにやってきた。石垣の上の窪みに移植した。日当たりがいいので順調だ。

ヤリノホクリハランも自生だ。以前から生えているはずだが、最近、その葉の形の美しさに気付いて殖やし始めた。客人が、貰っていった。ランという名前がついているが、つた類だろう。

地面近くには、他にディフェンバキア、サンセベリア、オリズルラン、セイロンベンケイがある。

2022年03月05日

ハイビスカス・レッドフラミンゴ 52場

上の庭の東南端。石垣をはさんで接する21場のフウリンブッソウゲと、この52場のハイビスカス・レッドフラミ

ンゴとがからみあって大きく成長している。高さ4mほどだ。フラミンゴは、花から垂れ下がったものにさらに花がつくという二段咲きが印象的だ。恵美子が挿し木で大きくしたものだ。玄関脇の81場にも育てていたが、崖の途中だったので、枯れてしまった。遠慮なく大輪の花を二段咲きさせるので、とても印象的だ。

この二つのハイビスカスよりも背が高く5mを越すのが、サガリバナ(サワフジ)だ。いずれ7～8mになって、上の庭の主木になりそうだ。一階テラスのウッドデッキから、手に取るような距離で咲く。夜の8時以降に咲くが、鑑賞するのに絶好の位置だ。

これらの他に、定番のコルディリネ、ドラセナ・コンシンネ、サンセベリアがある。



2022年02月26日

ドラセナ・コンシンネ 2 51場



ドラセナ・コンシンネは、一つの苗だけは買ってきたものだが、他は挿し木で殖やしたものだ。葉色が緑中心のものと赤中心のものがある。全部で十数本になった。スラッと美しい。最も高い中庭のものは高さ5mを越すが、ここ51場のものは、2mほどだ。

セイロンベンケイは、落ちた葉からも新芽が出て大きくなるくらいだから、どんどん広がっていく。自生のものだ。2～3月にとってもユニークな花が咲く。

他には定番のサンセベリア

ここだけでなく、あちこちの場に自生し繁殖しているのは、オオイタビだ。どこにも伝って大きくなる。樹木にまきついて、幹を痛めることもある。コンクリートの地面や壁面を伝っても大きくなる。元気あふれるものは、大きな茎や葉をつける。

2022年02月20日

壁面を覆うツタ類 50場

庭畑は、石垣で二分しているが、今回からその上の段にある庭に話は移る。

まず地面からロープを伝って、3階ベランダ近くまで伸びる4種類のツル植物だ。

シッサスは、15年位前に、挿し木で植えたが、ぐんぐん伸び、またたく間に7～8m伸びて、3階ベランダに到達した。枝から糸のような赤い根が垂れ下がってくる。大量の根が垂れ下がると、すだれのようなになる。それはそれで楽しいが、成長が良すぎて、ほかの植物を圧倒してしまうので、10年位前に、大胆に8割ぐらいカットした。それでもなお伸びてくる。白い花が咲くが、それほどでもない。

次に植えたのが、ハニー・サックル(スイカズラ)。着実に伸び、白い花も咲かせる。

アサヒカズラも植えたが、具合がよくないので、別の所に移植した。

最後に植えたのが、リュウキュウテイカズラで、白い花が美しい。

これらに加えて、53場に植えたニンニクカズラがぐんぐん伸びてきて、ロープに這わせて、つた類に仲間入りさせた。現在では一番元気が良い。だいたい色の美しい花を年数回咲かせる。

地面といっても、テラスの床下になるところが多いが、次のものが育っている。

サンダンカ シュロガヤツリ サンセベリア

サンダンカは、大きくなって、よく開花し、ベランダの端を美しく飾る。白い花のも植えたが、赤い花の方が大きくなって、縮こまっている。



我が庭畑紹介 後

2022年02月15日

月桃（サンニン） 31場



月桃は高さ3～4mにもなる。春には美しい花を咲かせ、秋には種を取って、薬草茶に入れる。葉も薬草茶に入れるし、衣装箱の防虫袋にも入れる。この場にある自生の月桃（写真右端）と購入した苗を植えたシェフレラ（写真左端）以外は、私が挿し木で育てたものだ。ドラセナ・コンシンネ（下右）、クロトン（中央）、サンセベリア、コルディリネ（下左）。

2022年02月10日

ドラセナ・コンシンネ 30場

29場同様、観葉植物ばかりだ。コルディリネ、ドラセナ・コンシンネ、クロトン、ゲッキツ、ダイギンリュウなどだ。ゲッキツ以外は、挿し木して植えたものだ。地面には、かなり以前に植えたクミスクチンが、顔を出す。

地面には日が届かないので、草が生えず、草取り作業がなくなりつつある。

写真の右半分に見えるのが、ドラセナ・コンシンネ4本。うち一本はクロトンの向こう側に見える。左半分の月桃の前に見えるのがコルジリネ。中央下がダイギンリュウ



2022年02月05日

クルチ（リュウキュウコクタン）

29場



敷地の南側は、西の方に広がっているが、敷地内のクルチなどだけでなく、隣地の大木の枝葉も茂り、地面近くには日光があまり入らないが、それでも育つ観葉植物の場になっている。29場はその中心に位置する。隣との境界近くには、ハブ除け網を設置し、千年木を植えている。

主木はクルチ（リュウキュウコクタン）だ。全部で10数本あったが、すべて前所有者が植えたもので、樹齢20～30年だろう。そのうち10本は、繁殖して日照をさえぎり過ぎるので、途中で切った。残り3本を大きくしている。いずれも5～6mになるが、29場のものが一番高い。スラッと伸びた樹形が好まれている。

他に、コーヒーノキ、ディフェンバキア、ドラセナ・マッサンゲアナ、ポリシヤス、シェフレラが育っている。地面には、カクチョウラン一株があるだけだ。年一回美しい花を咲かせる。地面の他のものは、

他の場に移植した。

2022年01月31日

モンテスラ ライチ 28場

27場で紹介したライチのなかで一番大きいものが、ここで育つ。収穫しやすいように、高さを2メートル余りに抑えているので、枝は横に広がる。ライチの幹の枝分かれ個所に着生ランを植えている。年に数回開花

数年前に苗を植えたモンテスラは、クワズイモの巨大な葉に切れ目が入ったような葉を、太い茎に順々につけていく。葉の重みで茎が地面をはうようになる。管理しにくいので、途中で切って、挿し木している。現在4本を育てている。そのうち2本は他の場だ。

ここには、ミルクブッシュを育てている。73場にある大きなものの枝を挿し木で、ここに育てている。日当たりが悪いので、元気がない。どうしようかな。





2022年01月26日

サガリバナ (サワフジ) 27場

サガリバナは、10年ほど前に高さ50cm足らずの2本の苗を購入し、一本をここに、もう一本を後で紹介する52場に植えた。いずれもすごいスピードで生育し、今では5～7mの高さに至る。枝から垂れ下がった房に、順々に開花していく。毎年5月に咲き始め、12月まで咲いている。ある年は暖かくて正月にも咲いて驚いた。夜8時頃に開花しはじめ、翌朝落ちる。夜の開花を楽しむには、照明が必要だ。早朝は樹上での開花を楽しめるが、落花したのも、かなり美しい。

ライチは3本、前所有者が植えたものだ。そのうち1本がここにある。樹齢は30年に近いだろう。隔年でとびっきり美味しい赤い実をつける。鳥が食べに来るので、私と先着争いだ。

ライチの幹にサクラランを着生させている。19場のものと同様だ。

ポリシャスは、高さ10cmくらいのかわいい苗を数本買ってきて、育てている。いまでは1mほどになった。おとなしい感じだ。

他に、マッコウとオオタニワタリが育っている。

この場には、流木家具の椅子の壊れかかったものを置いているが、猫の椅子とした愛用されている。

2022年01月21日

コーヒー 第26場

第26場は畑の西端で、チシャノキ等の大木の下で、日陰になりがちなところだ。

合計7本のコーヒーの木があって、先行した3本は実を収穫し始めてから数年になるが、そのうち一番立派なものをここに植えている。



毎年数百個余りを収穫して、それなりのコーヒーを飲んでいる。まああの味だが、実の収穫から始まって焙煎までの作業手間が半端ではないので、継続するかどうか迷っている。加えて、私自身がコーヒーを飲まなくなっている。ということで、いつまで継続するだろうか。

ほかには、アグラオネマ・シルバー、ウッチン、マメシダ、フィラデンドロン、オオタニワタリ、キキョウラン、コルディリネなどを育てている。

2022年01月16日

ペペロミア 第25場

ここは、カニステルやクルチのために日陰になっており、日陰でも育つ植物を育てることになる。



ペペロミアをいつ植えはじめたかは、もう忘れてしまった。ここに住み始めたころ、どなたかにいただいたものだろう。挿し木でどんどん殖えるので、あちこちで育てているが、この場が本拠地で、一面に広がっている。

この場には、他にクロトンを育てている。

2022年01月11日

シマトネリコ 第24場

シマトネリコは、名前にひかれて、7、8年前に苗を購入し育てている。初めは高さ30cmぐらいだったが、いまでは5～6mになる。ウェブ情報によると、10メートルを越すようで、花が美しいとのこと。開花するまで、しばらくは放置し、その後剪定の方針を決めようと思う。葉も美しい。

ビヨウヤナギは、10年近く前に植えたが、高さ1m足らずで、黄色い印象的な花が咲く。隣のコーヒーの木の蔭になっているので、それほど元気がよくない。今後どうするか、思案中。

他に、コーヒー、ミニバラ、トレニアコンカラー、アグラオネマ・レッドを育てている。



リュウゼツランも植えていたが、間違えて、枯葉などをかぶせてしまった。数か月埋もれていたが、気づいて取り除いたところ、元気だった。

2022年01月07日

マッコウ並木 第23場

庭と畑とを区切る石垣に沿って、マッコウ並木がある。我が敷地はマッコウが自生しているところで、数本の苗を配置して大きくしたと思うが、もう17年前のことで、記憶が薄れている。生育条件がいいので、ぐんぐん大きくなり、立派な並木になっている。高さを1.2mぐらいに抑えて剪定している。マッコウの正式名はハリツルマサキだ。マッコウはシマクトウバ名だ。



マッコウ並木の西端にクルチがある。いまや6mの高さに立派に成長している。その幹の途中にカトレヤを着生させている。数年前から12～3月と咲き続ける。今年は寒いためか、今朝開花一輪。

マッコウの根元には、種こぼれのサンダンカが育っている。

マッコウ並木の東端にはマメツゲが育っている。私が植えたのか、自生しているのか、記憶がはっきりしない。生育条件が悪かったので、まだ小さいが、最近大きくなり始めた。その傍には、サン

セベリアが何本も伸びている。

2022年01月02日

ハウライカガミ 第22場

この場では、1.8mぐらいの高さにロープを張って、ハウライカガミのツルを這わせている。他にも、6～12月にはウリズン豆のツルが這って、沢山の収穫がある。以前は



パッションフルーツのツルも這わせていた。這っているツルは、かなりの広さになる。多分20～30㎡ほどだろう。

ホウライカガミは、オオゴマダラの食草として有名だ。ほかには、アサギマダラ、ツマムラサキマダラなど、たくさん蝶が群がる。夏場には、常時10羽以上の蝶が見られる。当然オオゴマダラ数匹が、いつも飛んでいる。

この場は、数年前まで金煌マンゴーの大木、そしてクルチが一本あったが、地上の明るさを確保するために、伐採した。おかげで日当たりがよくなり、いろいろな植物が旺盛に育っている。

伐採したマンゴーの隣に、大鉢で育てているジャボチカバを置いている。酸性土を好むために、鹿沼土を入れた鉢で育てている。1mを越しており、しっかりと育っているのも、まもなく着果するのではないかと期待している。

リュウゼツラン 我が庭畑に数株育てているが、それらの親株だ。10年以上前に隣家と植物交換をして、植えたものだ。子株が沢山出てくるので、子株は一本のみにし、他は株分けして移植したり、来客に差し上げたりしてきた。

アマリリス おそらく前所有者だと思うが、畑のあちこちで育ち、春には美しく大きい花を咲かせる。

アップルミント 10年以上前に植えたが、畑のあちこちに広がっている。とても甘い香りが印象的だ。

トレニアコンカラー 私が好きな草花だが、数年前にここに何本か植えた。その後、種こぼれで広がっている。花の形がランのようで美しい。

ペンタス これまた、私が好きな花で、挿し木で殖やせる。

日日草 いまや庭畑の中心的花で、赤、白、ピンクの三種がある。生育力抜群で、こぼれ種からも広がる。

サンセベリア 庭畑のあちこちにあるが、日陰でも育つ。地下茎で広がる。

プルメリア 最近、頂いたものを挿し木で育てたが、その枝を再び挿し木で育てている。白い花だ。

2021年12月28日

フウリンブッソウゲ

第21場

再び畑の東に戻って、庭と畑を区分する石垣の下側を順に



紹介していこう。

フウリンブツソウゲ (写真は根元)

我が庭畑には3本育てている。この場のものが一番大きくて、高さ5メートル近い。年中咲き続ける。花びらの中央にフウリンの鈴のようなものが垂れ下がる。

写真の右側は、フウリンブツソウゲの根と根元近くの幹、左側はライチの根と幹。中央の地面からたくさん出ている緑がオクラレルカの新芽

ライチ

わが庭に3本あり、前所有者が植えたものだ。ほぼ隔年にとびっきり美味しい実をつける。6月ころだ。美味しいので、鳥も好物だ。私との奪い合いといった感じだ。

オクラレルカ

突然の訪問者があり、何かの植物をさしあげた返礼にいただいたものだ。はじめは、どんなものかわからなかったが、そのうち新聞などで話題になり、名前を知った次第だ。青い花が美しい。

生育力旺盛で、地下茎でどんどん殖える。どんどんカットしていかないと大変なことになる。最初はこの場だけだったが、株分けで他に二カ所育てている。

2021年12月23日

カニステル 第20場



畑の西側で、第19場に隣接する。このあたりから、ティートリー、サガリバナ、クルチ、シマトネリコなど高さ5～6mの木々の蔭になってくる。日当たりが悪くなるので、日陰植物が増えてくる。

20場は、カニステルが中心樹木で、樹木としては他にクチナシがある。カニステルは、数年前から実をつけるようになった。直径10センチ近いものが10数個～30個ほどだ。今年からは、いっせいに収穫とはならず、熟し始めたら収穫という感じになってきた。

クチナシは自生しているもので、白い花が美しい。

地表には、ディフェンバキアが育ってきている。植えてから数年たち、50cm～1mの高さに至り、ちょっとした林状態になってきた。緑の美しい観葉植物だ。その根元に

は、フィラデンドロンがはっている。他にオリズランも少しある。
観葉植物園のような感じになってきた。

2021年12月18日

ピタンガ 第19場

ピタンガ

数百個という大量の赤くて美味しい実をつける。食べきれずに、沢山おすそ分けしている。多いので、収穫が大変だ。収穫に適する時間は、わずか一日だ。早すぎると、酸っぱさが残る。遅れると、鳥の餌になる。こうした収穫日が半月ほど続く。

アセローラに似ているが、アセローラより美味しくて、最近人気が高まり、あちこちで見かける。隣り合っていた、クルチとホワイトサポテを伐採したので、さらに条件がよくなり、ますます美味しい実を沢山つけることだろう。

美味しいので、他の場二か所にも、2～3年前から育てている。来年ぐらいから収穫できそうな気配だ。



サクララン

ピタンガの幹と枝に這わせて育てている。ランではないが、着生ランのように育てている。ピンク色の小さい花が丸まって、大きなまん丸の球になって咲く。

地表でも日が当たる場所に、クフェアと小菊を育てている。

2021年12月13日

レモンユーカリ (ユーカリ・シトリオドラ) 第18場



レモンユーカリ（ユーカリ・シトリオドラ） 数年前に小さな苗を植えたが、いまでは高さ6mになる。生育スピードが速く、順調に育つ。虫よけ効果もあるそうだ。葉先からレモンの香りを出すと言うが、高すぎて感じられない。ティートリーに並ぶ貴重なものになるかもしれないな、と期待している。

この調子でいくと、あと数年で我が庭畑で最高の8～9mになりそうだが、おそらく台風で幹が折れるのではないかと思う。ウェブで調べると、風に弱く根こそぎ倒れるとある。その時に復元するのかしないのか、見守るしかない。

パキラ

3～4年前に幼苗を植えたが、順調に伸びて、現在は高さ3メートルになる。幹が1メートル余ぐらいになったときに、まわりに5～6本輪状に枝を伸ばす。そのうち2本は通行を妨げるので切った。幹の高さ2メートル余りで、再び輪状に枝を伸ばしてきた。これは切っていない。この枝葉の形が面白い。ウェブで調べると、高さ20mにもなるという。隣のユーカリと競合するかもしれない。

根がトックリ状に丸く大きくなる。可愛らしい。植物園などでは、高さ2～3mでとどめているようだが、我が畑ではどうなるだろうか。

コーヒー

数年前にこぼれ種で育てた新苗を植えたが、場所が悪いのか、生育はよくない。もう一年くらい待って、育てるか切るか判断しようと思う。

ハゴロモジャスミン

10年位前に27場に苗を植えたが、場所が日陰で条件が悪くて、生育状況が悪かったので、思い切って移植した。今度は条件がよいのか、ぐんぐん伸びている。ツル性なので、近くのレモンユーカリからロープを伸ばしたら、伝い始め、大きくなり、現在高さ2メートルに近づいている。今後どうなるか楽しみだ。

マッコウ（ハリツルマサキ）

わが庭畑には数十本育っている。その中で一番大きいものがここにある。大きなクルチに隣接していたが、そのクルチを伐採したので、生育条件がよくなり、もっと立派になりそうだ。

マッコウは、自生しており、こぼれ種からさらに増える。多すぎるので、新芽をみつけたら取り除いている。私の50年近く愛しているものだ。なによりも姿が美しいし、愛くるしいからだ。

ハンダマ

地表部分は、ハンダマが覆い始めている。ベランダのコンテナからあふれてきたので、地面に植えたものだ。もはや食べきれない量だ。

2021年12月08日

クアンソー 第17場

畑の中央西側で、条件がいいところだ。以前は、パッションフルーツを育てていたが、とても大きくなって、沢山収穫していた。3年位前から、開花するが結実しなくなった。人工授粉もしていたが、どうもうまいかない。ということで、今はやめている。その跡に、アップルミントが大量に育っている。

クアンソーも大量に育っている。消費できないので、希望者に差し上げている。

ピタンガを一本植えている。19場に大きくて、たくさん実るものがあるが、隣の樹木と競合し始めたので、今後の中心は、ここ17場の新苗にしようと思っている。来年ぐらいから結実しそうなので、楽しみにしている。

数年前アップルマンゴーを植えて、それなりに大きくなってきたが、世話管理が大変なので、途中で切って、現在はハウライカガミやウリズンマメを結ぶロープをつなぐものになっている。いずれは、根元から伐採するつもりだ。

八重山でそだてられた香辛料のヒハツが、いろいろと効果が高いというので、数年前に植えた。少しずつ収穫もできるようになった。今後も伸ばしていくつもりだ。

10年以上になるナンテンは、傾斜地の養分の少ない所に植えたためか、息も絶え絶え状態が続く。別の所で立派に育つものがあるので、あきらめようかと思っている。

ここにもラクティアの新しいものを挿し木した。挿し木成功率100%の強い植物だ。



このように雑多なものを植えている。今後どうしていくか模索中だ。たぶんピタンガが中心になっていこう。



2021年12月03日

アメイシア 第16場

畑の東側中央で、植物栽培には好都合のところだ。これまで中心だったバナナには、終止符を打つつもりだ。それに代わって、2～3年前に植えたアメイシアを育てようと思っている。沖展出口で販売していた苗を植えた。原産地は南米で、花は美しいし、果実もよさそうだ。といっても実物を他では見たことがないから、よくはわからない。まだ高さ1メートル余りで、開花までこれから2～3年かかりそうだ。楽しみしている。

隣には、植えて10年近くのサルスベリがある。美しい花を咲かせる。

他に、野菜やハーブを植え続けてきたが、現在は、ウリズンまめ・クールミント・サツマイモ・ニラなど。

ウリズン豆は、一度植えると、何年も継続して実をつけてくれる。7、8月にも実をつけるが、本格的には9～11月だ。面倒なのは、枝が這うロープをセットしなくてならないことだ。ロープにはホウライカガミも伸びてきて、競合している。ということで、今年で栽培を打ち切ろうと思っている。

ここは、土もよくなっているの、来年以降どうするかを、思案

中である。

2021年11月28日

メイフラワー リュウゼツラン トックリラン ダイギンリュウ 15場

この紹介連載は、今回から場所が再び東に戻る。傾斜がきつい敷地のなかでは、下から三段目になるこのあたりは平らなほうだ。元気のいい植物種も増える。以前は、野菜やハーブを植えることが多かったが、樹木が広がって地面あたりの日射が弱くなっているの、果樹・観葉植物が主体になっている。

中心になる樹木はメイフラワー(写真では、ほんの少ししか写っていない)。住み始めたころに、どなたかにいただいたものを地植えにしたもので、毎年開花後に剪定しているが、今では高さ2mになっている。ピンクの花が3月に咲く。名前からすると「5月の花」なのだが、気候のせい、か、「3月の花」である。たくさんの細かい花が咲いて、豪勢な雰囲気

気を漂わせる。一週間ぐらい咲き続ける。

リュウゼツランは、我が畑に数株ある。そのなかで一番大きいものは22場にあつて、頂き物を地植えにしたものだ。これを株分けして、この15場に植えた。ここは栄養分が多いためか、生育がいい。子株がいくつも出てくるが、一つだけ残して、他は整理した。親株は、高さ1m近くになる。20～30年たつと、高く伸びて、開花する。とても珍しい開花なので、新聞にも載る。葉先の刺が鋭く、時々「いたたッ」とすることがある。美しい観葉植物の一つだ。

トックリランは、卓球仲間の川端さん宅に超巨大なものがある。根元の太った個所が1mをはるかに越す。それだけになるには30年位かかるのではなからうか。そんな姿にあこがれて、苗店で買ったものを植える。現在高さ50cmぐら이다。根元のふくらみが、とっくりに似ているので、こんな名前になったようだ。

ダイギンリュウも、頂き物の地植えだ。鉢植えしたものもある。美しい観葉植物で、生育力も旺盛だ。

サンセベリアは、わが庭畑に数百本もあるだろう。おかげで、マイナスイオンだらけだろう。

バナナは長く育ててきたが、初めの頃は収穫の楽しみがあった。このごろは、私の熱が冷めて、縮小の一途で、2、3年もするとゼロになりそうだ。周りの植物も大きくなり、多栄養を好むバナナの生育余地が狭くなってきたこともある。

ウッチンは、どんどん殖えるので、収穫消費しきれない。この頃では、ご希望の方に差し上げている。収穫しきれないので、そのまま年を越し、再び大きく育つという具合だ。今年も、半分ぐらいしか収穫できなかった。

それに、収穫しても、小さな芋を取り残してしまうので、庭畑のあちこちで、新芽新葉が伸びてくる。



2021年11月24日

インドナツメ 14場

12?年前の第一回南城祭で苗を購入。当初の5年間順調に育つ。しかし、隣の畑が耕作放棄地状態になり、アカギ



ヤギンネムが6～7mの高さまで伸びて、我が敷地の南端近くにあるインドナツメは日照不足気味だ。

本によると、強い剪定をすると、実のつき具合がよくなるというので、毎年4月末になると、幹の半分以上を切っていた。それで、3～4年前から、1～10個ほど収穫できるようになった。青リンゴを高級?にしたような味だ。とにかく美味しい。しかし、昨年は収穫1個だった。台風風の風で、花がやられたこともあるし、剪定しすぎかもしれないので、今年は、剪定しないで伸ばしている。現在高さ4メートルを超えて順調に伸びている。そこまで伸びると、日照も確保できるので、「今年こそは」と期待している。

根元にはサンセベリアとセイロンベンケイを植えている。

2021年11月20日

キンカン 13場

中央やや南側の傾斜地。そこにもクルチがあったが、伐採した。そこで、大きくなって中心になりそうなのは、キンカン。

柑橘類を植

えた記憶はあったが、日陰でなかなか大きくなりなくて、種類が何だったか、記憶があいまいになっていた。クルチを切ったためか、日当たりが良くなって、順調に伸び始め、今年初めて開花し、実をつけた。そこで、食べてみて「やはりキンカンだった」ということになる。写真に小さな青い実が写っている。

来年以降、さらに大きくなり、そこそこの収穫があれば、と期待している。

根元には、今年、キキョウランとエンサイを植えた。マッコウが自生している。

前所有者がクルチの根元に植えておいたアマリリスが、なお元気で、毎年開花させている。





2021年11月15日

アセローラ 12場

バンシルーのある11場に隣接した場だ。中心はアセローラ。もう一つの中心だったクルチは伐採した。それだけにアセローラが、より強くなっているようだ。

アセローラは、夏場にピンクで可愛くて小さい花をいっぱい咲かせる。10日ほど過ぎると赤い実になる。赤くならないと酸味が強すぎて、食べられない。しかし、赤くなると鳥が食べにくる。鳥の食べ残しを私たちが食べることになるのだが、全体の三分の一ぐらいしか食べていないだろう。ピタンガに似ていて、区別がつく人は少ない。アセローラの方が酸味が強い。

収穫の都合で高さを2mほどに抑えてあるので、枝が横に広がって直径が4～5mにもなる。隣の10場は、ほぼ覆われつくしている。隣の11場のバンシルーと競合していたが、高さを抑えているので、なんとかなっている。

アセローラの根元には、花キリンやクミスクチンを育てている。少し離れたところに挿し木したラクティアがある。

花キリンは、40年ほど前に育てたことがあり、懐かしくて苗を植えた。しかし、アセローラに日差しを遮られて、成長もよくないし、花の色もさえない。なんとかしなくては、と思う。

写真は、季節はずれに一個だけ実ったアセローラ。まだ青い

2021年11月03日

バンシルー (グアバ) 11場

17年前、近くの店で買った苗を、まずは中庭に植えたが、土の状態がよくないし日当たりも悪いので、早々に、敷地南端に近い11場に植え替えた。順調に伸びてきはしたが、隣地の樹木にさえぎられて日当たりが悪くなり、精彩を欠いた。高くなると、収穫が難しいということで、高さを抑えていたことも輪をかけた。そこで、いろいろと試みて、ようや



く日当たりを確保してやると、急に元気になり、今年になって、大きく伸び始めた。現在高さ5mほどだ。

美味しい実は、ほとんどが鳥の餌になり、木から落ちたりしている。食べると、結構いける。来年からは収穫作戦を始めようかと思う。

根元には、サンセベリアやクミスクチンなどを植えている。

2021年10月28日

中心になる植物が未確定で、流動的な所 10場

10場は、変動の激しいところだ。隣接する場には、中心になる大型植物があるが、それらに囲まれて、このごろでは日当たりも悪くなった10場には、中心のものが無い。傾斜もきつい。

そのため、色々なものを植えたが、定着していない。そんななか、クールミント、そしてバナナミントという強いミント類が生き残っている。

種が飛んで来たのか、小枝が挿し木状態になったのか、私が植え忘れたのか、といった具合に、色々なものが少しずつ生育している。オクラレカ、メイフラワー、ハンギング・ヘリコニア、ウッチンなど。私が植えたハンダマ、さつまいも、パッションフルーツなども、かろうじて生育している。

今後、どんな形になっていくか、思案中試行中が続く。

2021年10月22日

ハンギング・ヘリコニア 9場



敷地の東端に近い所で、かつて腐葉土を作っていたところ。最初にハイビスカスの苗を植えた。白っぽい大きな花が咲くものだ。順調に大きくなり、現在高さ2mを越す。

しかし、後から植えたハンギング・ヘリコニアの余りにも強い繁殖力のために、完璧に取り囲まれてしまった。この夏にハンギング・ヘリコニアの7割ぐらいをカットし、ハイビスカスにも日が当たって、生育できる環境を作った。

ハンギング・ヘリコニアは、どなたかにいただいたも

のを地植えにしたものだ。もう10年を越すと思う。当初ストレリチャ（極楽鳥花）と間違えていた。調べていくと、種が違うだけでなく、オウムバナ科に属している異なるものだとわかった。滅多に見ないものだが、まさに「熱帯の花」という強烈なものだ。

花は初夏から咲き続け、赤・黄が混じり、異様な形をしているが、人によっては、「毒々しさ」を感じるかもしれない。茎の高さは、2～4mになり、花が10本以上ついた房が垂れ下がってくる。一か月ほどは咲いている。

半径1mぐらいの広さに数十本伸び、量的にも圧倒的で、重みのため風で倒れかかる。このままいくと、隣のハイビスカスどころか、周囲の植物を制覇しそうな勢いなので、大胆なカット作戦に切り替えた。切った直後から、新芽がどんどん出てくる。一か月で1mを越すのだ。もしかすると、地中から根を掘り出す必要があるかもしれない。

写真は、カット後50日後の撮影だが、もう新芽が大きな葉を伸ばして、いっぱいだ。中央がカットしないで大きく伸びているものの下部

2021年10月16日

チシャノキ 8場

8場は我が敷地の西南端の急傾斜地だ。そこから西に数メートルの隣地内に大きな岩がある。その岩と7場の岩とを結んで、石垣が作られている。造られたのは多分100年以上前のことだろう。その石垣から高低差にして1.5mほどの急傾斜面が、距離にして2mほどあって平地となり、隣の畑につながる。その急傾斜が終わるところまでが我が敷地である。

そこは雑草・雑木が茂っており、ハブも棲んでいそうなところで、ほとんど手を付けないでいた。それでも少しずつ整備してきた。といっても、なかなか分け入るのは難しい。最近、その傾斜の上部にハブ除け目的で、網を張った。

そこで生育している樹木は3本。他にもあったが伐採した。樹木以外では月桃とつる植物のオオイタビなどがある。

チシャノキ（写真は幹の中間部分 幹の周りの細いものはオオイタビ）

我が敷地では最高の7～8mを誇り続けている。幹回り130cmで敷地内最大だ。高さは当初から今も変わらない。台風で枝が折れてしまうからだ。一部の枝は私が切ったが、困難を極める。もう一つ高さを抑えているのは、オオイタビなどのつる植物による締め殺しだ。締め殺されて弱った枝が、台風で吹き飛ばされる



という具合だ。

当初名前不明だったが、沖縄の植物に詳しい屋比久壮実さんがチシャノキだと教えてくれた。この近辺ではところどころで見かけるし、隣の森にもある。人間に活用される話はまだ聞かない。年に2回ぐらい白い花をいっぱい咲かせる。

シャリンバイ 雑草とチシャノキに隠されて、長い間気付かなかったが、10年ほど前に発見した。樹齢は15～20年ほどか。染料とか何かに活用するらしい。梅に似た花が車輪状につくので、こういう名前だそう。現在高さ4メートルほど。数年前から下枝を切るなどの世話をしている。春に開花する。

ゲッキツ 敷地内の隅のあちこちで伸びてきている。ここでは一本を大きく伸ばしている。成長力が強い。今は高さ4mほどだが、幹枝は細い。香りがいいので良い。

月桃 種が落ちてどんどん広がる。余りに繁殖力が強いので、大半は取ってしまうが、取り忘れが毎年伸びてくる。

オオイタビ チシャノキを締め殺す張本人。敷地内のあちこちで伸びている。小さい時は可愛いが、大きくなると「犯人」のような雰囲気をもって大きくなる。これも葉草になるようだ。

2021年10月10日

大岩 7場

高さ2mほどで、上部の平らな場所の広さが2㎡ほどの大岩が、敷地の西南にある。多分、大きな一枚岩だろう。海岸でよく見かけるもので、上から下に向かって、波に削られて細くなっていく個所（ノッチ）が見られるものだ。2000年以上前、もしかすると1万年以上前には、海岸にあったが、地盤が隆起して現在は海拔20メートルぐらいの地点にあるというわけだ。

だから、植物は、岩の上部のくぼみにたまった土で育っているのだろう。横にある小さな穴からも、小さな植物がみられる。



岩の上にある植物を並べてみよう。

ソテツ 建物工事中の17、18年前に敷地で見つけた苗を植えた。周りに大木がない当時は、太陽光をいっぱい浴びすくすくと育ち、新葉の長さは1～2m、幹もそのうち1m近くまでになった。大きな雄花も咲いた。しかし、周りの木々が大きくなると、日陰化し、おまけにオオタニワタリが幹に着生し、成長の邪魔をし始めた。

ここ2、3年新葉がでてこない。

そこで、少し離れて陽光もさすところに新たな苗を数本植え、現在はそのうちの二本が大きくなっている。

長命草（ボタンボウフウ） 私が苗を植えたのか、自生なのかは、記憶がはっきりしない。ここでの私たちの居住当初から、元気よく繁殖している。7場でもっとも多いものだ。山羊汁とかソーキ汁などに、フーチバーのように入れて食べるが、クセが強くて、しり込みする人もいる。私は、薬草茶に混ぜたりもしたが、柔らかい葉なので、処理が難しい。形がユニークなイシガケチョウの食草になるらしく、たくさん群がったことがある。なぜか最近は見かけない。

マッコウ 自生のものが知らないうちに大きくなっている。

他に、岩の表面や側面の窪みに、自生のリュウキュウコスミレやカラムシなどが生活している。

2021年10月04日

ティートリー 6場

ここは敷地南端で、しかも7場の大岩の陰になるので、多くの植物の生育にとって条件が悪い。そこで、当初の何年かは、剪定した枝葉などを捨てて腐葉土化堆肥化する場所にしていた。

それでも、南端に2～5場同様に植えた、ドラセナ・ソングオブインディア、コルディリネ、ドラセナ・コンシンネなどが大きく育っている。高さを2メートルほどに抑え、隣地にはみ出るのを抑えるために、年に2～3回剪定を行っている。

また、当初、アセローラを育てており、実も収穫していたが、隣の木々と競合したので、数年前に大胆に間伐した。現在、大きな木は、ティートリー（メラレウカ）一本であり、高さが6～7mにもなっている。

15年ほど前に、苗店で小さなものを見つけ、植えたのだが、そのころは、育て方がよくわからなかった。インターネット検索でもヒットしなかった。そのうち原産地では湿り気のある所で育っているという情報を得て、現在の場所に移植した。するとすくすくと育ち、5m近くまで伸びた。剪定した枝を煮だして風呂に入れ、最高の入浴剤にしていた。風呂場だけでなく、家全体がティートリーの香りに包まれて、いい気分だった。

ところが、風速55メートルの台風が襲来し、幹が根元から折れた。それでもすぐに新芽が出て



きて、順調に生育し、現在では高さ7mほどになっている。

ティートリーは、アロマやハーブに取り組み始めた1990年代から愛用していたので、是非育てたい植物だった。ラッキーなことに、このように育ってきた。加えて、わが庭のものは、メラレウカ・スノウ・イン・サマーという種類で、4月ごろ見事な花を大量に咲かせる。年によって異なり、2021年は開花しなかったが、咲いた年は、実に見事で、桜に負けないどころか、それ以上の姿を見せる。

他には、何も育てず、大量の枝葉を詰め込んだ空間がある。そこで今年に入って、オオタニワタリ、ハンギング・ヘリクニアを移植した。それらの下で、大量の枝葉が腐葉土化するようにしている。

2021年09月28日

コーヒーの幼木 5場



5場も、2、3、4場と共通するものがほとんどだが、コーヒーの幼木2本が異なっている。別の場で大きく育って実も収穫している木から、こぼれ種が沢山の新芽を出す。それらを移植したものだ。5場は湿気があり日陰でもあり、コーヒーノキ生育には好条件なのだ。成長してきているので、間伐して現在2本を育てている。実をつける

るまでには、あと数年かかりそうだ。コーヒーの木は酸性土壌を好むので、クチャのアルカリ土壌では、植え込み穴に鹿沼土やピートモスを入れて植付ける必要がある。

他に、ペパーミント、スイスリッコラミント、メキシカンスイートハーブなどがある。以前、ビワを育てていたが、隣接する6場のティートリー、14場のインドナツメと競合するので、このビワを切った。その跡にこれらのミント類を植えたのだ。この場は、枝葉などを大量に敷きこんであるので、クチャが腐葉土化して植物には育ちやすい場だ。

2021年09月22日

ベチパー 4場



3場と場所が似ているので、共通するものが多い。ソング・オブ・インデ

イアなどの垣根状のものは、まったく同じだ。

写真右側に写っているベチパー(イネ科)は、アロマ精油として使われている。香水で有名なシャネル5番の材料でもあるそうだ。ゴキブリ対策としても有効だということで、我が家でも、ベチパー、よもぎ(フーチバー)、月桃の三種の葉を乾燥させて防虫剤として活用している。ベチパーは、もともと2場にあったが、10年以上たち、植え替えが必要となり、株分けしてこの3場と4場に植えた。

シュロガヤツリ・メキシカン・スイート・ハーブも3場と同じだ。

ここにはベンチを古板で作ったことがあるが、湿気が強いので、1～2年で崩れてしまった。

2021年09月15日

シークワサー 3場

3場は、敷地南端の2～6場のうちのひとつだ。前回書いたソングオブインディアなど垣根状のものを育てる他に、次のものを育てている。

モンテスラ 昨年、挿し木したもののだが、新葉を出し大きく成長し始めている。切れ込みのある1m近い巨大な葉が魅力的だ。

クワズイモ(アロカシア) モンテスラに似た巨大な葉で、突然の雨の際には傘代わりになったということだ。この地域には自生していて、至る所で見られる。「食わない」芋も巨大で、掘りだしたものを置いておくと、新しい葉がすぐに出てくる。これが、東京か名古屋だったか記憶があやふやだが、都市中心部の園芸店でかなりの値段で売っているのを見て驚いたことがある。

シュロガヤツリ これまた繁殖力旺盛で、昨年株分けで植えた。でも間引きしないと、他の植物を抑え込んでしまう。

ベチパー これは10年以上育ててきた。株が弱ってきたので、植え替えや株分けをして育てている。防虫の役割を担っている。

エンサイ(ウンチュー 空心菜) 長く育てているが、最近、3場などで挿し木で殖やしている。3場は湿気が多い所なので、好都合だ。夏場には絶好の野菜だ。



メキシカン・スイート・ハーブ 甘いハーブで繁殖力抜群だ。あちこちに植えているが、殖え過ぎで、遠慮なく掘り出したり、カットしたりしている。甘味があり、ステビアと並んで、ハーブティーの甘味として使用している。

シークワサー 3場の中心樹木にするつもりだ。以前にも植えて

いて、実も付けていたが、多分カミキリムシのために枯れてしまったので、その代替として植えたものだ。でも、もうカミキリムシが来ていて心配だ。そこで、第二のものを別の場に植えている。3場のものは、当初大きな木の日陰になっていたが、やっと2m余りと、太陽を浴びるほどの高さになったので、今年はいくつか実をつけた。来年以降、カミキリムシにやられずに生育することを期待している。

マッコウ（ハリツルマサキ）これは自生してきたものだ。我が庭には20本ぐらい自生しているだろうか。種こぼれでどんどん殖えるので、どんどん取っている。それでも数年たつと美しく育つ。沖縄に来た45年以上前から好きな樹木だ。

こうやって書いてみると、繁殖力旺盛なものを育てていることがわかって。自生種にはそうしたものが多い。

2021年09月09日

大池 2場

敷地の南端は、重さ1トンのトンブロックをいくつも並べて石垣状にし、土の流出を防いでいる。そのトンブロックの内側に作られた幅1m余りで長さが20mほどの所が2場～6場である。その最初の第2場に大池をつくったので、この名前にした。将来、メラルーカ・マウンテンファイアが大きくなったら、それに名前を変えるかもしれない。

プラスチック製の池には、現在グッピーが百匹ほど泳いでいる。グッピー以外にもいろいろなものが集まってきて、池を使い生活している。カエルは数種類が来て、卵を産み付ける。しばらくすると、オタマジャクシでいっぱいになる。そして知らないうちにどこかへ出ていく。

トンボも来てつがいを作り、卵を産み付ける。ヤゴになりグッピーを食べる。ホテイアオイを水草にしていた時がとくにそうだった。卵を産み付けやすいからだろう。別の水草に替えたら、寄り付かなくなった。グッピーは天敵がいなくなって、元気よく泳いでいる。一年に2回ほど、水の入替えと清掃をしているが、それがかなりの作業量になる。

この池をビオトープにしようかと思ったが、なかなか難しい。今は自然の流れに任せている。

トンブロック沿いには、垣根になりそうなものを植えている。2場～5場に共通しているが、ドラセナ・ソングオブインディア、コルディリネ、ドラセナ・コンシンネ、千年木などだ。その近くには、オクラレルカ、ムラサキオモトなども植えている。

それらから少し離れて、上の方に植えているものを並べよう。

フィラデンドロン 薄緑色したつる性のもので、美しい。空港通路などでよく見かけるものだ。メラルウカ・マウンテンファイア(ティートリー)



を一本植えている。大きくするつもりだ。ティートリーは、合計3本植えている。一本は、第6場にある高さ7mの立派なものだ。それに加えて、最近、2本の苗を植えたが、そのうちの一本だ。大きくなることを期待している。

レッドジンジャー 昨年、屋比久壮実さんから頂いたものだ。今年2個が開花した。ぐんぐん伸びそうな気配を感じる。

三つ葉 10年以上の付き合いだ。こぼれ種から広がるが、意図的にここで殖やしている。手のかからない葉野菜で、美味しい。日陰植物なので、隣の森やわが庭の大木の日陰になって気分がよさそうだ。

2021年09月03日

ガジュマル切り株跡 1場

長く続けてきた「我が庭畑」シリーズは、今回から新しいステージに入る。我が庭畑を通路で区切ってできているブロックごとに紹介していこう。演劇のように、「～場」と名付けて書いていく。

数えてみると、ベランダや屋上を含めて全部で64場となる。その場にある中心植物の名で、場の名前を仮に付けてみた。いずれ楽しい名前に変えていこうと思っている。各場は1坪前後だ。

これから書いていく場は、低い所から高い所まで上っていく順に並べる。

第1場は、3年前まで大きなガジュマルが育っていたところだ。巨大化して管理不能になりそうだったので、大胆に切った。17年前の我が家の工事中、敷地東南端にある大岩のくぼみに小さな芽が出ているのを発見したものだ。それを伸ばしておいたら高さ7～8mの見事な樹木になった。

切るのは大変な作業だった。そして枝葉を片付けるのは、一層大変だった。すべて堆肥するために、掘った穴に埋めるからだ。残された切り株は、庭を下から眺めるのに絶好の椅子になっている。(写真は中央やや右)

切り株の根元は、少しずつ風化しているが、椅子としてはあと数年もちそうだ。



大岩の上なので、植物の生育条件はよくないが、逞しいものは、きちんと育つ。現在は、ゲッキツ、オオタニワタリが育っている。地面のうえは、ムラサキオモトとタマリユウが覆い始めている。ゲッキツは自生だ。岩の大きなくぼみはハブの棲み処なる可能性がある。くぼみを埋めるためにオオタニワタリを他の所から移植した。立派なものなので、将来はこれがシンボルの地位を確保するだろう。

この場は、下水道本管のある広い道路まで

をつなぐ下水管と排水路を備えた長さ約5.0m幅1mの通路へつながる。その通路はウォーキング用にもなる。

初めの頃、このあたりを我が家の拝み所にしようかと相談したこともある。ガジマルの蔭にもなって、雰囲気もあるからだ。でも、ガジマルを切って趣も変わったので、拝み所をどこにするかは、未定だ

庭たより

2021年08月29日

ユーフォルビア類 庭たより32最終回

和名では、トウダイグサ属ということで、その英語名がユーフォルビアということのようだ。とても種類が多く、気づかずにいることが多い。私もそうだ。以前育てていたポインセチアもそうだ。



ユーフォルビア類は、不思議な仲間だ。柱サボテンのようなものから、ダイヤモンドフロストのような草花まで、いろいろだ。我が庭畑にあるものを並べてみよう。

花キリン 付き合いは長く40年を越す。花を毎年咲かせる。

次の三つは、一度も開花に出会ったことがない。開花に出会えるかどうかかわからないが楽しみにしている。

ラクティア (商品名 マハラジャ) 我が家の中心植物になっている。挿し木で殖やして、現在10本近くになっている。最初に植えてから7, 8年になる。現在高さ1m余り。

柱サボテン 何度も調べるが、名前を特定するまでには至らない。台風で倒れても、再び大きくなる。現在高さ2m
写真には何本もが並んで映っている

ミルクブッシュ (ミドリサンゴ) (写真) 大きく育ち、現在高さ4mを越す。

写真には、3m 近くの幹の上の枝が映って





いる。

これらは、ウェブ上での商品価格が、びっくりするほど高値だ。商品写真を見ると、小さい。本州あたりでは室内の鉢植えで育てるようだ。我が庭のように露地植えで1～4mもなるのを見ると驚かれるだろう。

もう一つ、数年前まで育てていたものに、ダイアモンドフロストがある。白い花が美しい。

2021年08月23日

コルディリネ類 庭たより31

千年木

沖縄では、至る所で見られる。幹を5cm以上切って、数日水につけた後、挿し木すれば、1～2ヶ月でついて、新葉が出てくる。こんなに繁殖力旺盛なので、我が家では垣根の主材料だ。3階ベランダの西日除けにも使っている。1年で1～2メートルの高さになり、その後は、毎年1m～50cmほど伸びる。3～4mぐらいになると、台風で折れる。折れても、頻繁に新芽が幹の途中から、あるいは地面から吹きだしてくる。だから、どんどん剪定しないと、大変なことになる。

我が家では、総計すると、100本以上あるだろう。

アイチアカ (名前は推定) (上写真)

濃い赤色の葉である。千年木ほど成長はせず、可愛らしい大きさだ。

レッドエッジ (名前は推定) (下写真)

緑の色の葉に赤色を取り囲む。多少は大きくなるが、せいぜい2mだ。

この2種は、頂き物を露地植えしたものだ。

ドラセナ類とコルディリネ類のなかには、「幸福の木」と名付けて売り出してもものがある。幹を10cmぐらいに切って数本を数百円で、空港あたりの土産店で売っている。私も、31年前、沖縄から離れる時、庭にあった千年木を切って、何十本もの小片





を作り、土産で沢山の人に差し上げた。何人もの人が育てたという話を聞いた。中京大学の研究室でも育てたが、退職する時に、事務室に寄贈した。

ウェブを見ていると、コルディリネ類とドラセナ類が混在した記事が見られる。混乱している実情を反映しているのだろう。この2種の違いを示すもう一つとして、根の違いがある。コルディリネの根は、こん棒のように太いということだ。確かに、千年木の根は、大根やゴボウのような感じだ。大変頑丈で、処理に困ったことがある。

2021年08月16日

ドラセナ類 庭たより30

これまで、ドラセナ類とコルディリネ類の区別がつかなかった。最近、ようやくわかった。幹から直接葉が出てくるのがドラセナ類で、幹から葉柄が出て、その先が葉になるのが、コルディリネ類、ということだ。

すべてが、頂き物を地植えしたものだ。プレゼント用に苗店だけでなく花屋さんでも多種類売っているようだ。沖縄の気候に合うのか、偶然なのか、逞しく生きている。

ドラセナ・マッサンゲアナ

葉と幹の美しさは絶品。現在10本余り育つ。挿し木で殖やしてきた。一年間で20cmほど高くなる。高いものは3m近くになっている(写真 葉の下に3m近くの幹が隠れている)。幹から枝が出てくるのを見たことがない。途中で切ると、2～3本の幹が出てくる。2～3年に一回ぐらい開花するが、花はたいしたことない。

ソング・オブ・インディア

繁殖力旺盛。挿し木すれば必ず定着するといつてよいくらい。そこで、垣根状態にしている。全部で100本近く育てているのだろうか。枝があちこちから、真っすぐ、あるいはくねくねと出てきて、まるで踊っているようだ。花は美しいとはいえない。

近隣に、これを専門に栽培している農園がある。

ドラセナ・デレメンシス・コンパクト

この名前を見つけるのに、かなり時間を要した。名前通りコンパクトで、一年に数センチしか伸びない。葉が折り重なって出てくる点に存在感がある。現在2本を育てている。

ドラセナ・コンシンネは、3種類がある。

ドラセナ・コンシンネ・ホワイトホリー

どんどん上へ上へと伸びる。最高のは5mを越す。幹の途中から新芽が出てきて、枝というよりも新しい幹となる。一番大きなものは、11本の幹が伸びる。全部で10本ぐらい育てている。幹を折り曲げる加工をして売っていることもある。

ドラセナ・コンシンネ・トリカラー

葉一枚一枚が赤・白・緑の3色で構成されている。

ドラセナ・コンシンネ・レインボー

葉は、赤を基調にして色々な色で構成している。

いずれも、すっきりと美しい。人気ができる理由がわかりやすい。わが庭では多すぎ傾向だ。

2021年08月12日

リュウゼツラン トックリラン パキラ

庭たより29

リュウゼツラン (写真)

今回からは、わが庭畑の特色ある植物を紹介していこう。はじめは、リュウゼツランで、テキーラの原料だとは知らなかった。テレビでメキシコの栽培風景を映して知った。



頂き物1～2本を植えたのだが、根元から新株がでてくるので、株分けで殖やした。現在は、7～8本。はじめのうち名前がわからなかったが、ブログで紹介したら、植物専門家が教えてくださった。生育は、土質、日当たりなどで違いがあるが、現在大きいものは高さ1mを越している。

開花までには15年以上かかりそうだが、期待して待つ。近隣で、かなりの年数をかけて開花したものが新聞記事になった。

鋭く尖った大きな葉が幹から直接伸びる。それが積み重なり美しい姿を見せる。

トックリラン

卓球仲間の川端さん宅(親慶原在)のものが素晴らしい。根元の直径は1～2メートルある。姿が美しい。それに刺激されて、育てたくなる。店で2株購入して植える。ゆっくりだが、確実に成長している。根元から幹が太り、トックリに似ているので、こんな名前がついたようだ。幹の上から細長い葉が次々と出てきて成長していく。現在、高さ50cmほどと30cmほどだ。

パキラ

数年前に購入した苗だが、今では高さ2mを越す。幹の途中から5本余りの枝が広がり、枝から扇型に葉が出てくる。最近、二段目の枝5本が、高さ2m近くから広がってきている。幹の根元は、丸く太りはじめた。

いずれも、熱帯系の面白い木々である。

2021年08月06日

隣の森の大木 ガジマルの巨木など 庭たより28



我が家の北側は道路に接しているが、他の東・南・西側は森ないしは森めいたものに接している。とくに東側は、650年続く墓地を囲む森だ。我が敷地と100m近く接している。沖縄戦で森は荒れただろうが、戦後、自然林になってきたと思われる。南側は、10年近く前までは、マンゴー畑だったが、手入れ収穫をしないままなので、飛んできた種から大きくなった木々が、全面を覆っている。マンゴーの姿は見えないも同然だ。

西側も、雑木林の雰囲気をもつものが大半だ。ということで、我が家の隣地のほとんどが森状態だ。そこには、樹齢70年以上の大木も含まれる。目に付く大木の名前を並べてみよう。

ガジマル アカギ オオバギ ギンネム カシワバゴムノキ(ベンガルボダイジュ) ハゼ クロヨナ シャリンバイ

これらのなかで、ガジマルが最大級の大木となっている。何本もあるが、一番北の高い所にあるものが立派な姿を見せる(写真)。

2021年08月01日

台風とつる植物による締め殺し

庭たより 27

沖縄では台風によって大木が折れるのは日常的だ。我が敷地の大木も、しばしば折れる。チシャノキ、ブーゲンビリア、ティートリー、キバナタイワンレンギョウなどがそうである。大木が折れる原因のもう一つは、つる植物による「締め殺し」だ。

その代表例のチシャノキは、大きくなって隣地まで伸びそうな気配だ。一度は大きな枝を剪定したが、高所での剪定は、なかなか難しい。でも、大きくなりすぎそうで気になり始めると、なぜか折れる。よく見ると、オオイタビなどのつる植物による「締め殺し」であるとわかった。締め殺しで半分枯れかかったときに台風が来て枝を折ってくれるのだ。

他の木につる植物が繁茂すると切ることが多いが、チシャノキだけは繁茂するままとしている。おかげで、私たちが住み始めたころから、高さ7～8mのままで止っている。チシャノキは、自生しているので、樹齢はわからないが、30年以上になるだろう。

上写真 チシャノキの幹に巻き付いたツル

下写真 クルチにまきついたオオイタビ



2021年07月26日

ベストテン樹木の変化 ガジマルと金煌マンゴの伐採 庭たより 26

前回紹介したベストテン樹木の、ここ数年での大きな変化の一つは、別格の大きさであったガジマルと金煌マンゴを切ったことである。2018年夏に、双方とも切った。当時すでに高さ5メートルほどであった。大変な作業で、チェーンソーをフル稼働した。

この二つの木の枝葉だけで、庭畑面積の2～3割以上を覆い、そのまわりがすっかり日陰になってしまった。

根から掘り起こせばいいのだろうが、その作業をするほどの体力が私にはなかった。というよりも、重機を使わなければできない作業だろう。ということで、切り株を残したままにした。ガジマルの方は、切り株の上に板を載せて、簡易ベンチを作った。マンゴの方は高すぎて、ベンチを作れないが、我が猫たちが愛用している。

双方ともに生命力が強いので、根元や切り株から伸びてくる新芽をくりかえし切り取った。ガジマルは、ようやく根が自然に還り始めた。双方とも、切り株全体が朽ちるには、あと何年かかるだろうか。5年間は残りそうだ。

※ 2021年7月に、長年にわたって収穫してきたビワ（幹回り27cm）が枯れたが、原因は不明だ。

もう一つの大きな変化は、小さくなったブーゲンビリア、キバナタイワンレンギョウである。台風などのために、折れたりしたことが原因だ。ブーゲンビリアは、一時10メートルほどの高さになり、遠くからでも、満開の花が美しく見えて、我が家のシンボルにもなった。しかし、最高時の2014年ごろから徐々に小さくなってきた。それでも、5位で頑張っており、美しい花を咲かせ続けている。今春は、思い切った剪定を行い、復活へと期待している。

キバナタイワンレンギョウは、2014年にランク入りしたが、再び台風で倒されて、ランク外となった。現在は28cmだ。倒れてもすぐに復活してくる。半年もすれば、元の高さの3～4mになるが、幹の太さは、簡単には戻らない。



2021年での特筆事項は、トックリヤシモドキ、フウリンブツソウゲ二本、ティートリー、サガリバナ2本のベストテン入りである。

トックリヤシモドキ（写真）は、幹がゆっくりと伸びてきて、現在高さ4m近く、幹の肌が見えるところが2m近くになり、目通し測定ができるようになったため、「突然」の2位登場だ。写真のものの中央に新しい葉が出てきているが、途中で虫に食べられている。すぐに竹酢液をかけて駆除した。時々、こうしたことがある。

フウリンブツソウゲAは玄関脇のもの、Bは庭にあるものだが、順調に大きくなり、今回のベストテン入りだ。

ティートリーは、台風で根元から折れて、一時ランク外となったが、再び登場し、3位の栄光に輝いた。

サガリバナは、毎年、著しい伸びで、2本とも、ベストテン入りとなった。

今後大きくなることを期待しているのは、次のものだ。（ ）内は、幹回りと高さ。

シマトネリコ（18cm 5.5m） ユーカリ（17cm 5m） バンシルー（30cm 4m） インドナツメ（20cm 3～4m） シャリンバイ（40cm 5m） シークァーサー2本（10cm 2m）

このうちシャリンバイは、チシャノキの横に自生してきたもので、樹齢は10年位になるだろうか。他は、私が購入してきた苗を植えたものだ。だから、樹齢は5～15年だ。

これからどんな風に大きくなり、どんな景観を作ってくれるのかを楽しみにしている。

2021年07月21日

我が家の大木ベストテン 庭たより25

前回書いた「目通り」(幹回り)のベストテンを紹介しよう。数字は、高さ120cm個所での幹回り

2014年のベストテン ()内は、2009年の順位と幹回り

- 1位 ガジマル 140cm (2位 101cm)
 2位 チシャノキ 126cm (1位 113cm)
 3位 金煌マンゴー 102cm (4位 83cm)
 4位 ブーゲンビリア 74cm (5位 77cm)
 5位 ライチA 63cm (3位 87cm)
 6位 ライチC 50cm (9位 33cm)
 7位 キバナタイワンレンギョウ 48cm (ランク外)
 8位 クルチA 46cm (7位 38cm)
 9位 ライチB 40cm (7位 38cm)
 10位 クルチB 39cm (9位 33cm)

2009年6位のティートリーは当時47cmあったが、その後、台風で根元から折れたために、2014年は35cmとなりランク外となった。

2021年のベストテン (後ろの数字は推定の樹高)

- 1位 チシャノキ 130cm 8m
 2位 トックリヤシモドキ 110cm 4m
 3位 ティートリー 87cm 6m
 4位 フウリンブツソウゲA 77cm 5m
 5位 フウリンブツソウゲB 77cm 4m
 6位 ブーゲンビリア 68cm 4m
 7位 ライチB 67cm 3m
 サガリバナA 67cm 5m
 9位 ライチA 63cm 3m
 10位 サガリバナB 59cm 6m

ランク外 40cm以上 クルチA 56cm (もともと6mあったが、途中で剪定したため3m) クルチB 53cm (高さ6m) マニラヤシ 51cm (高さ6m) アレカヤシ 51cm (高さ5m) ライチC 45cm (高さ3m) クルチC 47cm (高さ5m) クルチD 41cm (高さ5m)

これらのなかで、ライチの樹高は、収穫作業のしやすさのために、3m以内に抑えている。

写真は、我が敷地の西南端で、端にうつっているのが、チシャノキ。隣の森から伸びた枝も写っているのを見にくいですが、クルチB、シマトネリコ、ティートリーなども写っている。



2021年07月16日

庭畑の維持・バトンタッチ 大木対応 庭たより24

このブログでは、我が庭畑のなかで大木といえそうな（大木になりそうな）ものを、しばしば取り上げてきた。例えば次の二つ。

2009年9月7日 我が家の樹木「目通り」≡幹回りビッグ10

2014年1月11日～3月1日 我が家の木々の成長 森へ 樹木シリーズ（15回）

※「目通り」とは、地面から120cmでの幹周りの長さ

その後も、何度も取り上げてきたが、樹木の大きさに焦点を当てたのは、これらの記事だ。

では、その後はどうなっただろうか。2010年は、これらの樹木たちが「大きくなる」ことに期待を寄せていた。2014年もおおよそそうであったが、大きくなりすぎているものへの対処に頭を悩ませ始めた時期だ。

そして、2021年夏の現在は、シマトネリコやユーカリのように植えて数年ほどのものは別にして、大きくなり過ぎないように作業することが中心になってきた。

それには植物間の事情と私の事情とがある。植物間の事情は、樹木間の距離は変わらないが、幹枝葉根が伸びるにつれて、空間が減って、地面に日が当たる量や地中の吸収できる水分量が減り、樹木自身も生存競争状態を増す。樹木以外の「弱小」植物は負けていく。そこで適切な量に維持しなくてはならない。つまり剪定・伐採が必要だ。そんな手入れをすることで、「自然」を維持することになる。



私の事情は、体力が下がるにつれて、作業量が減り、ついには作業ができなくなる。とくに高所での作業は難しい。そして、次の担い手に渡すことになるが、そうしやすいようにしなくてはならない。

庭畑は、作り始める時は、「殖やせ殖やせ」という気持ちが圧倒的だが、何年かすると、安定志向へと移り、さらにバトンタッチへと移っていくのだ。こうしたことを象徴するのが「大木」への対応なのである。

写真は、枝葉を積み重ねて堆肥にするところ

2021年07月08日

ドラゴンフルーツ 庭たより23



屋上で育てて続けて10年を越す。プランターに植えっぱなしである。冬場に堆肥を追加するだけだ。水は、天然の雨だけ。日当たり抜群ですくすく伸びる。

昨年秋、屋上に、手すりと防護線をつけてもらったので、それを支えにして、順調に伸び始めている。

例年、5月末から巨大な花を夜に咲かせる。咲いた花が結実すれば、3週間ほどで赤い実になる。

苗は、隣人からいただいたものを殖やしていった。現在14鉢ほどである。

写真は、つぼみ→開花→結実（開花から20日ほどして赤味がかってくると、収穫する。その収穫数日前のもの）



2021年07月03日

水管理 堆肥づくり 庭たより22

長かった梅雨もようやく終わり、真夏がやってきた。梅雨末期の大量降雨で、庭畑の表面はまだ水浸しに近い状態だが。そして、梅雨時は、降雨量が増えるので、草木の成長が早く、草取り作業に時間がかかる。樹木も高速度で伸び、剪定必要箇所が増える。

わが庭畑の特徴は急傾斜地にあることで、排水には、それほど悩まない。対照的に日照りの時の散水が大変



だ。それでも、昨年今年は降雨が順調なので、散水は数回もやっていないだろう。

水分調節のための最大の対策は、土の改良だ。水はけをよくすると同時に、保水性も持つようにという、相反する要求に応える土を作らなくてはならない。それは要するに、有機質豊富な土にすることである。

17年前の表土の厚みは5cmぐらいで、スコップを入れると、すぐに石灰岩か、硬いクチャ（粘板岩）に当たった。そこで大きな穴を掘り、大量の枝葉を投入した。といっても、1メートルの厚みの枝葉を投入しても、腐葉土化すると、3～4センチの厚さに圧縮される。だから大量の枝葉を数年ごとに投入する必要がある。木片がもっともいい。シルバーセンターに頼んで、木材チップをトラックで大量に運んでもらった。それ以降、ぐんと土質が変わった。

それでも、まだまだ不足だろう。ともかく、庭畑で出る枝葉をどんどん投入している。堆肥つくりのコンポストも4つ活用している。また、間伐した木の幹や太い枝を投入することもする。栄養分に化けるためには数年かかるが（写真）。こうして現在が、表土は20cmほどになった。30cm以上になることが目標だ。そうなれば、何を植えてもよく育つ「ふくよかな」土になるだろう。もう10年ほどかかりそうだが。そのころまでは、庭畑作業ができる体力を維持したい。



2021年06月29日

通路づくり 庭たより21

写真は、3階ベランダから見た庭畑

庭畑の通路づくりは三つの作戦でやってきた。

1) 畑庭と通路との境目に、タマリユウを植える。リュウノヒゲの背の低いもので、背丈は5～10センチほどだ。愛知の家で育てていたものを、引っ越しの際に大量

に持ってきて、それを植えた。最初は「点」状態だったが、2～3年で「線」状態へ、そして10年ほどかけて「面」状態になっている。

手入れ全く不要で、一日に2時間以上、日に当たるだけでOKだ。水やりも不要に等しい。

2) 畑庭からは、大量の石灰岩のカケラがでてくる。カケラといっても、50cmにもなる大きなものもある。それらをすべて通路に埋めた。その上からモルタルをかけて、通路にした。総延長100メートルを越すだろう。最近、露出している石のところどころに美しい苔が生えるようになった。日陰で、水分多めのところだ。これも美しい。

3) 花崗岩の踏み石

購入してきた直径30cmほどの花崗岩の丸い石を庭の通路に並べた。全部で40個ほどだ。踏み石のあいだに玉砂利を置いた。しかし、玉砂利のほとんどが、ミントとメキシカン・スイート・ハーブなどのハーブとドクダミでおおわれてしまった。最初のうちは取っていたが、このごろは諦めて、伸びていただいている。

2021年06月19日

時間をかけない庭畑づくりへと進む

庭たより20

昨年の9～12月は、我が家改修工事のため、大掛かりな足場が設置され、庭畑作業を進めるうえでも、難しさがあった。でも、それが終わってからは、一日100分ぐらいしている日が増え、多少の整美もできるようになった。

加えて、私自身の加齢に伴い、庭畑作業の作業能率が低下し、さらに高所作業など、困難になるものが増えてくる。

とうことで、庭畑づくりをしてきた17年間、作業時間は一日平均で1～2時間ぐらいだろうか。作り始めのころは、もっと時間をかけたと思うが、今では1～2時間に落ち着いてきた。当然、天候による長短はあるが。

作業能率低下に伴い、作業量が減ってくる。それに合わせた植物管理へと移ってきている。

- 1) 毎年種を蒔き植付けをして収穫するようなもの、野菜類がほとんどそうだが、そうしたものの比率を減らしている。数年前に植えた苗が、何年も繰り返し伸びてくるウリズン豆やニラのようなものは例外だ。
- 2) 大きくなるにつれて、樹間が狭くなった樹木は、間伐して、本数を減らす。14本あったクルチを4本に絞ったのが典型的だ。
- 3) ハーブや草花では、放置しておいても大丈夫なものだけを育てる。そのため、多年草が中心になるが、一年草でも多年草化するものはOKだ。ウリズン豆やルッコラがそうだ。

写真は、剪定中のライチ



2021年06月13日

中庭の観葉植物園化 庭たより19

前回6月8日記事で書いた観葉植物園づくりの第二弾として、中庭の話だ。

建物の北側なので、日陰になりやすいが、それでも10年ほど前は、それなりに日は当たった。しかし、樹木が大きくなったので、ほとんど日が差さな

くなった。

2メートル以上の高さのものを並べよう。

キバナタイワンレンギョウ タイワンレンギョウ
月桃（樹木ではないが、高いので仲間にいれておこう）
クロトン フウリンブッソウゲ コルディリネ ミルク
クブッシュ オオバナアリアケカズラ トックリヤ
シモドキ

これらの大半は、駐車場から我が家3階玄関をつなぐ
橋の欄干（地上3~4メートル）を超えるものだ。

これらの植物で日陰になっている箇所に、背の低い観
葉植物を植えている。

ポトス トラノヲラン（サンセベリア） ドラセナ・マッサンゲアナ ディフェンバキア オオタニワタリ スパ
ティフィルム トックリラン ソング・オブ・インディア シルバー・アグラオネマ キキョウラン ペペロミア
ポリシャス などなど

雪の下 イルカンダ モンテスラ

それらの間に、岩を並べている。



2021年06月08日

レッド・ジンジャー 観葉植物園づくり 庭たより18

昨年いただいたレッド・ジンジャーの苗を地植えした。栽培は初めてなので、試行錯誤だ。4月上旬には、赤い花の
蕾の外観が見え始めてきた（下写真）。そして、中から黄色いものが出てきている（次ページ上写真）。

庭畑に植えていた木々が高くなって、地面が日陰になってきたので、そんな場所を観葉植物園のようにしてきた。観
葉植物には日陰でも育つものが多いからだ。

まず、敷地の西南隅だ。地面に日が当たらないよう
にしている樹木などをまず並べておこう。

チシャノキ シャリンバイ ゲッキツ 月桃（樹木
ではないが、高さ3メートルにもなる） コーヒーノ
キ クルチ（リュウキュウコクタン） カニステル
ライチ シマトネリコ サガリバナ

これらの御蔭で、地面の日照時間は1時間あるかな
い程度だ。そこで、地面に植えている観葉植物類を
書こう。

シルバー・アグラオネマ クロトン コルディリネ



タマシダ ドラセナ・マッサンゲアナ 雪ノ下 マッコウ
 カクチョウラン ペペロミア ポリシャス オオタニワタリ
 モンテッスラ クワズイモ ミルクブッシュ 他数種



2021年06月02日

ウコン（ウッチン）の開花 植物間の

距離と間引き・剪定 庭たより17



料理や薬草茶などに使う。

ウコンはショウガの仲間だ。大変育てやすい。収穫したウッチンを埋めるだけだ。どんどん大きくなる。4～5月に芽を出し、途中に花をつけ、秋には、葉が枯れてくる。そこで収穫だ。春ウコンと秋ウコンを育てている。他にも紫ウコン、クニクウコンなども育てたことがあるが、今は、春ウコン（左写真に写っている花）と秋ウコン（下写真に写っている葉）だけだ。

昨年は収穫できたが、「在庫」があったので、そのまま土のなかで年越しをさせた。今年再び大きくなってきた。他にも、収穫忘れのものが、大きくなってきている。

庭づくり当初は、植物間の距離を適切な間隔にしているつもりでも、数年たつと密集状態になり、間引きが必要になる。樹木の場合、その必要が数年間隔でやってくる。

随分前に、職場の大先輩に、庭づくりは、何年後をイメージして作るかが重要といわれたことが、このごろになってようやくわかるようになった。近隣に新しく庭づくりを始めた人がいるが、1年後ないしは現在をイメージして作っているので、「すぐに間引きが必要になるよ」と予告してあげた。

わが庭畑の間引きということでは、大木になったガジマルと金煌マンゴーは、3～4年前に、大胆に切った。おかげで、庭畑は明るくなった。大きな切り株が残り、ガ



ジマルはベンチに、マンゴーは高さ1メートルなので、猫の休憩所になっている。

クルチ（リュウキュウコクタン）は、前所有者が植えた10数本が、4～6メートルの高さまで大きくなっていて、大胆に4本を残してすべて切った。中には、高さ2メートルで切って、残った幹をロープでつなぎ、パッションフルーツ、ホウライカガミ、ウリズン豆のツルを這わせているものがある。鉄柱を立てるよりもずっといい。数年は維持してくれるだろう。いずれも、根元ないしは途中から新芽が出てくる。せっせと取り払っている。数年すると、寿命が尽きるだろう。

2021年05月28日

ハンギング・ヘリクニア 庭たより16



4月上旬には、赤い花の蕾の外観が見え始めてきた。10年ほど以前にプレゼントされたものを露地植えた。有機物を大量に埋め込んだ個所に植えたので、元気よく生育。一年草だが、高さは4メートルほど。数十本も伸びてくる。広がって、隣のハイビスカスを覆ってしまった。広がりすぎるので、今年に入って7割ぐらいカットした。それでも20～30本ぐらい伸びている。カットしたあとからもたくさん新芽が出てくる。カットを連続する必要がある。

温度が上がり、夏らしくなってくると、激しく生育する。

花の形が面白い。垂れ下がり、一段ずつ赤いところから黄色いものが顔を出す、そこに花がある。

熱帯雨林の植物の雰囲気、強烈な印象を与える。

2021年05月23日

サガリバナ（サワフジ） 庭たより 15

夜開花する素晴らしい花が人気だ。西原のサガリバナは有名で数百年の樹齢だ。

我が家には私が植えた2本あるが、樹齢は10年ほどだ。それでも、高さ5メートルを越している。成長速度は、1年に50cmと抜群だ。

例年、5月末から6月初めに初開花だが、今年は異常に早い。4月に咲き始めて、驚きだった。5月になると、連日の開花だ。6月にもなれば、いくつもの花房がつかまって、見事になるだろう。

毎年、年末まで咲き続ける。正月まで咲いた年もあった。



2021年05月18日

トックリヤシモドキの花房 庭たより 14

3月下旬に、花芽の房を包んでいた袋状のものがとれて、外にとびだしてきた。この袋状のものが幹から出て

きたのは、2019年11月だから、15ヶ月以上かかるわけだ。

葉が一枚落ちるごとに、袋状のものが出てくる。現在は7本出ている。この間、7枚の葉が出たというわけだ。そして、最近、二つ目の袋がとれた。

どんな花・実・種ができるか楽しみにしている。種を蒔いて殖やそうと思うが、苗木を植えるところはない。鉢植え1～2個が精いっぱいのところだ。皆さんにさしあげるしかないだろう。でも、できもしていない今、皮算用するのも変だ。

マニラヤシは、以前から、同じような袋から出てきて開花しているが、実を採取したことはない。

ヤシは高木になる。マニラヤシ6メートル超 もう一本のアレカヤシは、4メートル超 トックリヤシモド



キは3メートル超だ。

台風には強い方で、今のところ、折れた経験はない。でも今後のことはわからない。

ヤシの新葉が出てくる中央の芯の個所に、時々虫が侵入し、柔らかい部分を食べる。それでヤシがやられることがある。40年ほど前、西原に住んでいたころ、大きく育ち始めたココヤシがそれで枯れたことがある。現在のトックリヤシモドキも2回ほどやられ始めたことがある。その時は、木酢液を被害個所にかける。見事退治できる。

2021年05月14日

らっきょう ニラ 庭たより13



ラッキョウもニラも「手入れ不要」に近くていい。ということで、長く付き合ってきた。

ラッキョウを畑に地植えすると、土が悪いのか、よく育たないので、今季は、コンテナに植えた。それでも、日照が悪いのと、肥料を与えていないので、市販のものと同様に、はるかに小さい。といっても確実に育つ。小さい方が美味しいとも思う。

生食向けには、まだ細い3～5月前半に収穫する。実が太り始めると(写真は5月14日収穫で太り始め)、苦みがでてくるからだ。6月末には、葉が枯れ、掘り上げ

る。夏には植え付けする。

でも、そろそろラッキョウ栽培は終わりにしようと思う。プロの生産品に任せよう。庭畑の植物種類をどんどん増やしてきたが、いよいよ減らす方向へと切り替える。私の老化に合わせようと思う。

ニラは、現在の庭畑を始めた時から長くやっている。その前の愛知の庭畑で栽培していた苗を移植したものが中心だ。今は、畑とプランターで育てているが、作り過ぎ状態だ。

年中収穫できる。根元5センチくらいで切れば、再び大きくなる。3年間ぐらいに10回ほど収穫するだろうか。3年ぐらいうると、根元から掘り上げて、再植え付けだ。



2021年05月09日

ハーブ繁盛の季節 庭たより12

今年は、ハーブの生育がいい。長年、苦勞してきたアップルミントも、畑からあふれて通路まで広がっている。オレンジバウムとレモンバウムはすさまじいほどだ。プランターの堆肥で育てはじめたからだろう。その後、庭畑に移植したものがあがるが、元気だ。

庭畑で難しかったものをベランダで育ててきたが、このように再び庭畑に戻す作業をしている。

露地植えで、安定して育てるのは結構難しいからだ。しかし、ベランダも満員状態になったので、露地植えに戻すのだ。

知らない間に消えたオレガノも、苗を買ってきて庭で育て始めた。

レモンバーベナは、以前に挿し木をいただいて植えたが、失敗。4月上旬に苗店で発見して植える。もう旺盛に生育している。今はプランターだが、まもなく地植えにしようと思っている。活用方法がいろいろとありそうだ。



ハーブには、草（一年草と多年草）と木とがある。レモンバーベナは図鑑によると、灌木ということだ。

これまで草の種類のハーブを沢山植えてきたが、木の種類を育てるのも上手になりたいと思う。一応大きく育っているのは、ローズマリーと写真に写っている月桂樹（ベイ、ローレル）だが、試行錯誤の連続だ。これから、同じく木のタイプのタイムをうまく育てることに挑戦しようとしている。プランターならなんとかなるが、地植えでの挑戦だ。土の質も多少はよくなっているので、

見込みはあると思っている。

ところで、毎年4月ころから11月までの畑作業はやぶ蚊に悩まされているので、ミントを中心に、ハーブを庭畑のあちこちに大量に育てて、対策にしようと思っている。2月ころから始めているが、少しは効果が出ているのか、私自身は悩むことが減った。4～11月は、網の上着で全身をおおってやっていた作業を、今年はまだやっていない。では、蚊に弱い客人にはどうなのか、確かめていくことが必要だ。

2021年05月04日

名護らん（着生ラン）の開花 庭たより11

我が家の着生らんは、リレー式に開花している。だから、一つでも開花している期間は、一年の半分ぐらいになるだろうか。ランは種ごとに開花時期が大きく異なる。

4月には、卓球仲間だった川端さんから頂いた名称不明でランが咲いていた。

名護ラン(写真) 数年前に洋蘭博覧会で購入した苗を着生させたが、昨年から咲き始めた。今年も4月末から開花。5月いっぱい咲き続けそう。地味な形・色だが、それだけに清楚さを感じさせる。



名称不明 数年前に購入した苗を植付けたが、毎年開花している。昨年までは2株の開花だが、今年は1株がまもなく咲きそう。6月いっぱい咲き続けるだろう。

2021年04月29日

クワンソー 薬草茶 庭たより10

クワンソーが大量に育ってきた。消費量が少なく、収穫しないからだ。地下茎でどんどん広がる。秋の花はとても美しいが、これほど育てても仕方がない。

活用法で、お茶にすることが広まり、クワンソー茶の商品提示も見かけるようになった。私も少しはしたが、本腰をいれて消費しないと大変なことになりそう。他にも広がっている薬草が多い。

消費量が減った要因は、薬用酒を呑まなくなったことだ。そこで、薬草茶にすることにし、先日から始めた。味が濃厚で、結構いける。ハーブティーと交互に賞味しようと思う。



入れるものは、次の通り。

フーチバー、ハママーチ、月桃(葉と種)、クワンソー、ドクダミ、クミスクチン、ビワの葉、バンシルーの葉。他に、長命草なども候補だ。

作り方は簡単で、収穫したものを乾燥させ、混ぜ合わせるだけだ。

2021年04月23日

季節外れが続く 台風 オクラレルカ

サガリバナ ウリズン豆 庭たより9

想定外のこと五つ

その1 台風の襲来。最大時895ヘクトパスカルになった台風が襲来した。この時期に台風が発生することは珍しくないが、ほとんどが北上してこない。今回は、少々違う。沖縄にもかなり近づき、風雨をもたらしたし、波がすごい。雨は、「恵みの雨」に近いが。

外出できない猫たちは欲求不満がたまるので、二人が室内で絡み合い、私も少しは荒々しく遊んであげる。



その2 猫がハブに噛まれた後に設営したハブ取り網に、想定外にアカマタがひっかかった。凶暴な性格なので、網に



正面から挑んだようだ。数年前について2回目だ。網目が少し細かいので、効果を心配していたが、今後もハブ向けにうまくいくことを願っている。

その3 サガリバナが咲く。例年だと5月末なので、新記録だ。地面に落ちている花びらで気づく。上を見ると、蕾が連なった房が下がってきている。

その4 ウリズン豆の初収穫(写真)。早い時でも7月なのに、今年はぶっちぎりの新記録。そのままにしておいて昨年の苗から新しいツルが伸びてきて、実をつける。

その5 ティートリーが満開状態に近づいていたが、長く続く低温状況のため、開花速度が遅くなる。オクラレルカも同じようだ。4月4日に、最初の一輪が咲いたが、本格的開花は4月末になりそうだ。新聞やSNSなどでは、上旬に見ごろを迎えた記事がでるが、我が家では遅い。

10年ほど前に何かの苗木を差し上げた方から頂いたものだ。手入れなしでも、どんどん広がる繁殖力旺盛だ。広がり過ぎた地下茎を大胆に取り除いている。

紫色の大きな花が印象的だ。アイリス・オクラレルカが学名で、私には菖蒲やあやめなどと区別がつかない。ところで、植物名には沖縄語名、和名、学名などがあって、使い分けに困ることが多い。

たとえば、同じものでも、ぶっそうげ、あかばな、ハイビスカスの使い分けは難しい。それに、アカバナを検索すると、沖縄で指す植物とは異なるものが登場してくる。

タイワンレンギョウは、デュランタとかハリマツリともよばれている。

洋名は記憶しづらいので、私は沖縄名か和名を使うことが多い。一番、記憶しづらいのは洋蘭だ。記憶不能状態に陥るので、このブログでも「名称不明」でごまかすことが多い。

2021年04月18日

ティートリー（メラレウカ・スノーインサマー）の開花 庭たより8

わが庭畑で大量に咲いて見る人を印象付けるのは、ブーゲンビリアと並んで、ティートリーだ。正式名は、メラレウカ・スノーインサマー。オーストラリア原産で、ティートリー名の精油が有名だ。香りがとてもいい。枝葉を取って、煮出して浴槽にいれると、極楽の香りが、浴室だけでなく、家じゅうに広がる。

虫さされなどにも効く。原産地でも重要な薬用植物のようだ。

いまでは、苗店で時々見かけるようになった。最近、他の2種をみつけたので、苗を植えた。成長し始めたので、大きくなるのを期待しているが、まだ20～30cmだ。

メラレウカ・スノーインサマーは、すでに6～7メートルの高さだ。植えたのは15年ほど前で、7、8年前に開花し始めた。昨年だけは、なぜか開花しなかった。暖かくなると、開花しはじめるが、いっきに咲くわけではなく、時間をかけて満開状態になる。このごろ温度上昇が止まっているので、ますますゆっくりと開花していく。それでも下旬には満開するだろう。

スノーインサマーの名の通り、というか沖縄では「スノーイン若夏」と感じる、木の枝を真っ白におおう雪の花だ。



ところで、メラレウカは外来種だ。人によっては、外来種を避けて在来種を育てた方がいいと語る。私も、部分的に賛同する。だから、クルチとかリュウキュウコスミレとかサガリバナなど、在来種をできるだけ育てようとしてきた。だが、なかには在来種と思っていたのが外来種であったというものが多い。私もクロトンは沖縄の在来種と思い込んでいたが、アジア・太平洋の島々原産で、いつのころか沖縄に持ち込まれたものという話を知って驚いたことがある。在来種というのは、千年以上前からなのか、万年以上前からなのか、どうもはっきりしない。

というよりは、在来種固有種というのを、万年以上前ということにすると、滅多になさそうなのだ。最近、マリス『自然』という幻想』草思社2018年という書籍を読んだが、こんな記述がある。

「自然を『元来の姿』に戻そうとしてきた自然保護活動。外来種を徹底的に駆除、手つかずの自然から人間を遠ざけ、人工物を撤去……。しかし、それで本当に、地球の自然が守れるのか？」「自然を「かくあるべし」と限定してきた過去の自然保護の在り方を批判し、自然をもっと多面的なものにとらえ直して、多様な現実的目標設定の下で自然を創り出す「多自然ガーデニング」を提案する」（同書カバーより）

なるほどと思う。我が庭も、実際には在来種も外来種も混じり合う「多自然ガーデン」になっている。



2021年04月12日

ピタンガの大量収穫 庭たより7

3月下旬に大量開花したピタンガが、大量の実をつけている。一日平均50個の収穫が10日ほど続きそうだ。

実の色がどんどん変化する。緑→橙→赤→濃赤。橙のころは酸っぱい。赤味がかると甘味が出てく

る。濃赤になると、甘味100%。その後1日ほっておくと、落ちるか、鳥に食べられる。タイミングが難しい。

似たものとして、アセローラがあるが、ピタンガが、ずっと甘い。

落ちた実から発芽し、新苗が誕生するが、多すぎる。現在は、高さ2メートルを越し、数年間収穫し続ける一本と、来年から収穫できそうな2本に絞って育てている。苗木は何本か贈呈した。



現在、リュウキュウテカズラが満開だ。ティートリーは、現在3分咲き。満開の見ごろは、下旬以降か。温度変化の影響が大きいので、予測は難しい。

アマリリスも咲く。4月3日に最初の開花を見た。4月いっぱい咲き続けるだろう。オクラレルカも開花し始めた。満開は20日ごろだろうか。

2021年04月6日

果樹の収穫期 ビワ カニステル 庭たより6

果樹の収穫は、種ごとに様々だ。春でいうと、3月中旬にビワやインドナツメ。3月末にカニステル。そして、ピタンガ。そのうちにアセローラ。6月に入ると、ライチ（レイシ）と続く。

インドナツメは、10年ほど前の南城祭の際に購入し植えた。3~4年前から収穫が始まったが、数個以内だ。今年は一箇だけだ。隣の森の樹木が大きくなって、日当たりが悪くなったためもあるだろうが、私の技術もうまくいっていない



のだろう。目下修行中ということだ。大胆な剪定が肝心ということで、毎年4月に幹・枝の半分ほど切っている。でも、切り過ぎかな、と思うので、今年は少しだけの剪定にしよう。

青りんごそっくりの形と味で、とても美味しい。大量収穫できる日を待つ。

10種ほどの木で収穫している我が庭畑では、途切れることが少ない。

だが、問題点は手入れが大変なことだ。苗店で、あるお客さんが、パッションフルーツの苗を購入なさって、「今年中に収穫できそうだな」と会話をなさ

っていた。「なかなか大変ですよ」と横から、くちばしを入れた。私のパッションは、最初のうち毎年のように大量収穫を続けたが、今は大苦戦状態。人工授粉や剪定もするし、何種も並行して育てているが、原因不明でうまくいかない。収穫できる率は、5割に満たない。

マンゴーなどは、1勝10敗ぐらいで、ついに断念し、幹枝葉ばかりが大きくなり、まわりの植物の生育をおさえるので、ついに切ってしまった。

そんななかであって、ビワとカニステルは、なんとか毎年の収穫を続けている。といっても、隔年現象があり、双方とも豊作の2020年に比べると、今年は半分以下の収穫だ。

ビワは樹齢が15年近い。今年のビワは、小ぶりで数も少ない。3月中旬に収穫は完了した。収穫後の剪定も終えた。

カニステルは樹齢10年ほどだ。今年は熟すのが遅い。黄色くなって熟してきたら収穫だが、すぐには食べられない。すぐに食べるとまずい。このまずさのために、好きでない人が多い。常温でじっと待つことが肝心だ。表面に皺がより、香りを発し始めたら、食べごろというわけだ。

今年は20個ぐらいで、昨年より少ない。時期がなぜか昨年より一か月以上遅く、中旬以降に収穫になりそうだ。

次の収穫予定の果樹は、ピタンガ（4月中旬）、アセロラ（5月）、ライチ（レイシ）（6月）

2021年04月01日

新葉・新芽の季節 ソテツ 庭たより5

暖かくなり、適量の雨も降る、いい季節になってきた。うりずんが近づく。この季節を待っている植物は多い。

ソテツもそうだ。新葉は、とても美しい。劇的に伸びてくる。一年に一回新葉が出てくるが、二回のこともある。出始めて半月もしないうちに、一人前の葉になる。この後の楽しみは、花だ。雄花はユニークな形だ。わが庭のものは、なぜだかこれまでもすべて雄花だった。

幹には、着生ランやオオタニワタリが着く。ランは私が着生させるが、オオタニワタリは、胞子が飛んできて着生し、自然に大きくなる。オオイタビもたくさん巻き付く。

いろいろなものが巻き付き、虫もつくためか、元気をなくすものもある。葉がなくなり、幹だけになる。我が庭畑では、葉を着けて元気なのが四株、幹だけなのが、四株だ。幹だけのものは、着生植物の天国だ。ソテツはすべて、一〇～一七年前に、私が、小さな赤ちゃんを埋め込んだものだ。



アメイシアは、二年前の沖展に出ていた出店で購入した苗を植えたブラジル原産の果樹だが、どんな果物ができるかは知らない。定着し、今年も新芽新葉が出てきた。楽しみだ。

この時期の新葉で印象的なのは、ライチ（レイシ）だ。新葉が赤い。赤い新葉のあいだに花芽をたくさんつけたものが伸びてくる。開花し、実をつけ、二か月近くたった六月末から収穫だ。今年は、沢山取れそうで、期待に胸膨らむ。

ティートリーの白い花がいくつか咲いた。数日前の暑さのためだろう。本格的な開花は、2～3週間待つ必要がある。

2021年03月26日

満開のブーゲンビリア 庭たより4



昨年8月からの外装工事の足場設置で、長い間、苦勞していたブーゲンビリアだが、工事がようやく終わり、今、満開の季節を迎えている。我が家だけでなく、あちこちでブーゲンビリアが強烈な印象を発散している。

我が家では2種類育てている。紫とピンクの花だ。

ピンクの方は、ここに住み始めてまもなく、高さ1メートルたらずの苗を植えたものだ。なぜかぐんぐん伸びて、3、4年のうちに高さ10メートルになり、3階ベランダまで広がった。支えるためにロ

ープを何本も使ったし、業者のススメで、針金製のロープまで設置した。

それにしても、台風の強風で支えるのが大変だ。ということで、今は高さ4メートルで抑えている。

紫の方は、知人から頂いた苗を鉢植えして、3階ベランダで育てている。沖縄でもっとも馴染みのあるものだ。

開花のコツは大胆な剪定にあると言われている。年にほぼ3回開花と剪定を繰り返している。

散った花びらが、地面やベランダの床を海面のように彩り、風が花びらの「波」を作る様は、とても美しい。

2021年03月18日

タイム 庭たより3

ハーブ栽培は、愛知に住んでいる時の20年以上前からしているが、現在の玉城の地に住んでから本格化した。苗店で見つけたハーブを軒並み植えてみた。定着し、活用できるものに絞って、現在40種余り栽培している。

タイムも、その一つだが、苦戦してきたものだ。

元気を出す効果があるし、呼吸器が弱い私には、去痰効果もあり有益だ。ハーブティーに混ぜて入れると、味が格段によくなる。味に深さ強さを与える感じだ。

最近、秋から冬にかけて、二つの苗店で、数種類のタイムを見つけて、購入して植えた。

かつては最初から地植えしたが、成功率は低かった。そこで、最近では鉢かコンテナに堆肥を入れて、植え付けている。高率で定着する。



現在生育中のものを並べてみよう。

クリーピングタイム 数年前から継続している。

以下は、最近植えたものだ。植えたばかりで、特性はまだわからない。

コモンタイム

オレンジタイム 4本

フォクスリータイム (エメラルド)

ブルガリスゴールドタイム

クリーピングレッドタイム

シルバータイム

種をまいて育てたこともあるが、大苦勞したし、最近では苗が容易手に入るようになったので、もっぱら苗から育てる。

タイムのようにバラエティに富む種のハーブは多い。セージ、オレガノ、カモミール、バジル、フェンネル、ラベンダー、ローズマリーなどだが、わが庭では、10種類近くあるミントが一番多い。

2021年03月12日

ハブ対策 庭たより2

我が家周辺は、ハブが多い。ハブセンターの方がハブ対策に指導にこられたほどの場所ではあるが、普通の人が日常生活で会うことはめったにない。人間と行動空間と行動時間がずれているからだ。無意識のうちに至近距離にいることは多いだろうが。

春から秋にかけての湿気が高い朝夕が出没の時期。でも、冬眠しないので、冬でも出る。我が猫が噛まれたのは、寒い日が続く中、急に暖かくなった2月7日のことだ。

私自身は、畑作業中に何度か出会い、ヒメハブを殺したこともある。

そこで、私がしているハブ対策を並べておこう。

- 1 出没危険がある場合は、長靴・軍手で作業。あらかじめ地面をたたいて振動を与えてから入る。我が敷地では、数年ほど出会っていないので、こうしたことをしていないが、隣の森との境界近くの茂みに入る時は、いまでも用心する。
- 2 岩石や植木鉢をひっくり返す時、要注意。下にヒメハブが隠れていることがある。2回遭遇した
- 3 農業用パイプをあちこちにおいて置き、いざという時に活用。頭を叩くため。「ハブを生け捕りにして5000円の収入を得たら」という人がいるが、そんなつもりもないし、生け捕りの技はない。
- 4 販売しているハブ除け剤をみると、木酢液が入っていたので、時々、木酢液をまく。
- 5 (決定版) ハブセンター推奨のハブ取り網は、1センチ余りの網目の漁網を設置する。ホームセンターには漁網



を売っていないので、もっとも似たものとして、野菜を鳥からよけるための網を購入した。漁網のように成功したわけではないが、少なくとも、ハブだけでなく猫も、網を超えての往来ができないようにした。(写真)

ハブとヒメハブの双方がいるが、わが庭畑は、ヒメハブが中心だ。可愛い？し、動きが少ないから、ネムリハブ(ニブヤー)とも呼ばれている。とはいえ、毒はハブに勝るとも劣らない。他にアカマタがいる。激しい動きは、ハブより恐怖を与える。ハブを捕らえて食べるだけでなく、「神」だともみられているので、「アカマタは

取るな」といわれている。ある時、畑の隅に置いていた鳥よけ網に自分でひっかかって死んでいたことがある。

2021年03月05日

開く花の種類も量も激増の季節へ 庭たより 1

この地での庭畑づくりも、16年半が過ぎた。これまでは、殖やし整備することに重点があったが、これからは、現在の庭畑を維持することに移っていきだろう。私の楽しみ方も、造る喜びから日常手入れと鑑賞へと移ってきている。

これまでの庭畑にかかわるブログ記事は、個々の植物にあててきたが、これからは、手入れと鑑賞の場としての庭畑と私の日々のくらしとのかかわりを綴ることにしていこうと思う。週一回ほどのペースで書いていくつもりだ。

3月はいろいろな花が咲き始める季節だ。2月は、一年でもっとも花が少ない季節なので対照的だ。並べてみよう。

メイフラワー カランコエ セイロンベンケイ 花キリン (写真) サンダンカ ブーゲンビリア トウワタ カトレア (着生ラン) 二段咲きハイビスカス ペンタス 日日草



鮮やかな朱色が多いのが特徴だろう。「いよいよ私たちのような明るい季節がやってきたぞ」と叫んでいるのかな。赤・紫・黄・青といった色のバラエティはどうして生まれるのかな。

我が庭畑の自然

2021年03月01日

果樹 我が庭畑の自然50最終回

この連載の最後を飾るのは果樹。

インドナツメ 春に収穫 リンゴに似た雰囲気

バンシルー（グァバ） 夏に収穫 沖縄では、子どもたちに長く愛されてきた

ライチ（レイシ） とても美味しくて、大好きな人が多い。6月に収穫 3本の木から、毎年100～200個ほど収穫している



アセローラ 春から秋にかけて、2～3回大量に収穫 甘酸っぱい

ピタンガ アセローラに似ているが、酸っぱくなく、甘いので、人気が出てきている。年に3～4回、大量収穫する。収穫しそこねたものが落果して発芽するので、自然に殖えてくる。現在、数本を育てている。
ビワ 春に収穫 毎年100個ほど。いうまでもなく、とても美味しい。

写真は、カニステル（別名エッグフルーツ） 毎年、20～50個ほど、実をつける。緑色が黄色がかったら収穫するが、すぐに食べて、「美味しくない」と感じ、好きでない人が結構多い。そのまま常温で完熟するまで長く待って、匂いがしはじめ、柔らかくなってきてようやく食べごろ。けっこう美味しいのだ。

アメイシア 2年前の沖縄展の出口につくられた出店で苗を購入し植える。南米原産の果樹ということだが、どんなものになるか、不明な点が多い。

ホワイトサポテ これだけは、収穫したことがない。もう一本必要だからだ。注文して取り寄せ、植えたが、しばらくして枯れてしまった。現在、一本だけ立派に育っているが、今後どうするか、思案中

樹木ではないが、パッションフルーツは、長く付き合っている。ロープで棚をつくって育てる。年2回収穫。

かつて育てていたものとして、金煌マンゴーがある。ある年、巨大な実300個を収穫して嬉しい悲鳴だったが、台風で実が落ちたりして、上手くいかない年が続いた。高さが5メートルを越して、周りを圧倒する大きさと管理しきれなくなり、ついに伐採した。大きな切り株が庭畑中央に鎮座している。

果樹は、美味しくなると、鳥との取り合いになるし、収穫をきちんと確保しようとする、かなりの手入れが必要。ということで、今書いた6、7種類の栽培収穫で安定してきているので、これを維持していこうと思っている。

2021年02月25日

キバナタイワンレンギョウ タイワンレンギョウ ゲッキツ 千年木 我が庭畑の自然49

キバナタイワンレンギョウ（キバナタイワンレンギョウともいう）

沖縄の庭や公園で、とてもなじみがある。それにしては、名前が知られていない。1年に1メートル以上伸びるほど、生育力旺盛だから、あちこちで活用されるのだろう。台風がくると、よく倒れるが、すぐに復活する。我が家のものは、根元から2回倒れたが、2年もしないうちに、元通りになる。黄緑色の花が咲き、黄色の実がつく。

一本が、玄関脇で立派になっているが、それ以外の、日当たりの悪い所2箇所でも、ちゃんと育っている。



タイワンレンギョウ（デュランタ）

紫色の花が圧倒的に美しい。明るい紫で、私が好きな木の一つだ。

我が家も2本育てている。日当たりが悪い所だが、それでも立派だ。生育力旺盛なので、始終剪定作業をしている。高さも2～3メートルに抑えている。

ゲッキツ

全くの自生だ。森などに行けばよく見かける。我が家の敷地の隅からもいっぱい出てくる。森の木という雰囲気を持っている。繁殖しすぎるので、数本に絞って剪定などをして育てている。葉が美しいし、香りもいいので、好かれる木だろう。

千年木

我が家の代表的な樹木で、現在も数十本育てている。40年前から付き合っている。30年前に沖縄を去って愛知に

行った時も、記念木として持参し、鉢植えにした。差し上げた人は数知れない。那覇空港では「幸福の木」として、10センチぐらいのものを数百円で売っていたが、いまでも売っているのだろうか。

現在は、垣根として、日よけとして活用している。

花は、とても地味なので、気づかない人が多いが、意外に美しい。12～3月に開花する。

2021年02月21日

フウリンブツソウゲ 二段咲きハイビスカス ブーゲンビリア 我が庭畑の自然48

フウリンブツソウゲ

沖縄のあちこちの庭で見かけるが、我が家にも3本育っている。玄関脇と庭の東西の通路脇に、である。高さは、いずれも4～6メートルであるが、一本は工事向けの足場設置でカットしたが、すぐに伸びてくるだろう。

花が抜群の美しさ。「ふうりん」とは上手な命名だと思う。年中咲くが、春から多くなる。枝が激しく増えてくるので、剪定を欠かせないが、高くなっているの、結構大変作業だ。

二段咲きハイビスカス

花が二段になって咲くので、私たちは二段花と名付けた。ネットで調べたら二段花ではなくて二段咲きというのだそう。我が家のものは、大きな赤い花の二段咲きのものだ。

頂き物を植えて、さらに挿し木で殖やした。最初に植えたものは、2年前まで玄関脇で立派に咲いていたが、コンクリートのひび割れした所に植えるという条件が悪い所だったので、いずれ消える運命にある。挿し木で庭に植えたものは、元気よく4メートルぐらいの高さまで育っている。

ブーゲンビリア

一本は、ここに住み始めて間もないころに地上に植えたが、なぜかぐんぐん伸びて、高さ10メートルまでになり、

3階ベランダまで広がり、4階にまで行きそうな感じであった。それが、遠くからも見えるので、我が家のシンボリック的存在になっていたころもある。

問題は、それだけのものを支えるロープをどうするかであった。最初はビニールロープでやっていたが、後からステンレス製ロープで支えた。だが、大きいだけあって、台風対処が問題となった。それに、剪定を強度にやると、開花が多いし、年におおよそ3回開花するので、それだけの作業も大変だ。ということで、台風ごとに痛めつけられていき、現在は、高さ4メートルぐらいで、以前の勢いの四分の一ほどになってしまった。それでも、かなり活躍してい



る。

もう一本は、在来種系のものをいただいて、鉢植えにしてベランダで育てている。ピンクの花が長続きしている。鉢植えで管理しやすいからだろうか。

フウリンブツウゲと二段咲きハイビスカスの幹枝葉 剪定したばかりだし、寒い日々なので、花はわずか。4月になれば華々しくなるだろう。中央太い幹はサガリバナ

2021年02月17日

クルチ シャリンバイ アレカヤシ ユーカリ 我が庭畑の自然47

クルチ

土地の前所有者が植えた14本を、そのまま引き継いだ。16年前は高さ2メートル前後だった。成長がゆっくりとはいえ、結構高くなってきた。そこで、もうしわけないが、10本を途中で切った。現在残っている4本は、高さ7, 6, 5, 5メートルだ。元気よく葉を茂らせている。台風、潮風の影響も受けない強い木だ。成長はゆっくりだが、美しさにひきつけられて、この木が好きな人は多い。硬い幹が三線の棹の材料になることはよく知られている。

シャリンバイ

ここに住みだして以降に、自生していたものが、伸びはじめた。現在高さ5メートル。車輪梅と書くような花の咲き方をして、春に咲くが、梅とは関係ない。染料の原料にもなる。沖縄の森のあちこちに見られる。下枝を整理する作業をしている。隣に咲くチシャノキを数年後には追い越しそうな勢いだ。

アレカヤシ

隣人にいただいたもの。40年前の小波津団地時代にも育てていたもので、なじみがある。根元から出てくる新芽をそのままにすると、繁雑になるので、切り取って3本だけ育てている。高さは4メートル余りだが、すぐに一層高くなりそうだ。

ユーカリ (写真)

数年前、苗を買って、畑中央に植えた。生育スピードは速くもう高さ4メートルになった。客人に「枝にコアラがいるでしょう」と冗談がいえるほどになりつつ





ある。

2021年02月13日

サガリバナ マニラヤシ シマ

トネリコ 我が庭畑の自然46

(写真は3階ベランダから撮影)

サガリバナ (サワフジ)

花の美しさ、そして夜にしか開花しないという幻想的な感じにひかれて、苗を探していた。10年前に売っているのを見つけて、数十センチのものを植えた。一本だと思っていたら、2本あって、ラッキーだった。

亜熱帯・熱帯各地にあるが、沖縄にも自生している。西原のものが有名だ。夜しか咲かない花の美しさもあって、いろいろな物語の題材にもなっている。

生育力旺盛で、毎年50センチは高くなる。ヨコにも広がるので、毎年の剪定がかかせない。しかし、3メートルを越すと、私の手には負えないので、今後どうするかが問題だ。現在は、6メートルと7メートルになっている。

花は、5月末から12月まで開くが、年を越した1月開花もあった。夕方から蕾がふくらみ、20時ごろ開花する。朝になると落花して、地面に美しい花びら園をつくる。夜は当然ながらライトを当てないと見えない。写真撮影は、フラッシュをつけると上手く写らないので、早朝撮影が都合がいい。一房に20～30個の蕾をつけ、数日かけて順々に開花する。房が、同時にたくさんぶらさがる。房が一度に10ぐらいぶら下がると、見事な花園になる。客人が見に来るのが難しいのが難点で、私たちだけで楽しんでいる現状だ。

マニラヤシ

15年ほど前に、建物西側通路脇に植えた。その頃は高さ50センチ。現在は7～8メートル。建物の3階に並び始めた。建物は12メートルを越すので、屋上を超えるには、もう10年かかりそうだ。

10枚ぐらい葉をつけるが、古くなった葉は自然に落ちるので、管理上都合がいい。

直立する幹がとても美しい。今年の台風で、葉が何枚か折れたし、外壁塗装の足場設置で、葉が少々傷んでいるが、夏には美しい姿をとりもどすだろう。

シマトネリコ

数年前、高さ50cmの苗木を植えた。現在4～5メートル。こんなに大きくなることは知らなかった。近くの樹木と距離が近いので困っている。せつせと剪定し、競合しないようにしているが、それでも、いつかは工夫する必要があるだろう。美しい樹木だ。

2021年02月09日

ティートリー チシャノキ 我が庭畑の自然45

長くなった連載の最後に、大きくなった樹木を、数回に分けて、ほぼ高さ順に紹介していこう。

樹木が大きくなると、剪定が難しく管理しきれなくなる。さらに日陰を作り過ぎ、台風で折れたりもする。ということで、大胆な間伐で、本数を減らし始めている。数年前に、5メートルをはるかに越したガジマルと金煌マンゴーを根元から切った。クルチ（リュウキュウコクタン、クロキ）が十数本あったが、現在は4本に絞った。

残った20数本の樹木の話だ。まず高さ7～8mになる2本だ。

ティートリー（メラレウカ）

最近になって、我が敷地で一番高い樹木になった。順調に行くとあと1～2年で10メートルになりそうだ。数十センチの苗木を植えてから15年で、この高さになった。途中2回台風で折れた。根元から折れたこともあった。それでも、元気よく復活してきた。

有名なアロマオイルが作られる。とてもいい香りだし、虫刺されや傷口などに塗って役立つ。オーストラリアでは、先住民が愛用してきたと言われる。

大きくなっているのは、メラレウカ・スノーインサマーという種類だ。4月ごろに、雪のような花を見事に咲かせる。毎年咲くが、去年はなぜか咲かなかった。今年はいっぱい咲くことを願っている。

香りが抜群で、枝葉を煮だして、風呂に入れると、家じゅうに匂いが充満し、幸せ気分になる。

昨年、もう一本のメラレウカ・マウンテンファイアを植える。実は買ってきた時は、メラレウカとティートリーが同じものであることを知らなかったのだ。現在は、高さ30センチの幼木だが、この後、大きくなって、どんな風になるかを楽しみにしている。



チシャノキ

敷地内に自生しているもので、ここに住み始めた最初から、高さ8メートルほどある。ティートリーに抜かれるまで、ずっと一番の高さを誇ってきた。近隣の森にもよく見かけるものだ。大きすぎて、隣地にはみ出しそうになるので、一度枝を切ったことがある。でも、私の力に余る大きさだ。そのうち、ツル植物が大きく伸びて、枝を締め上げて、弱らせていることに気づいた。弱った枝を台風が吹き飛ばす。風当りの一番強い所にあるので、飛ばされやすいのだ。こうして、昔から高さ7～8mでとまっているのだ。このあたりの森の木々の多くは、こうして樹高がおさえられているようだ。

ということで、自然による管理に任せることにしている。年に2～3回開花するが、鑑賞を楽しむほどのものではない。



2021 年 02 月 05 日

オオバナアリアケカズラ アサヒカズラ

ヤハズカズラ? サンバラソル ハツユ

キカズラ 我が庭畑の自然 4 4

オオバナアリアケカズラ(アラマンダ) (写真)

黄色い大型の花がいっぱい咲くので強烈な印象だ。玄関の橋の欄干をおおっている。強烈過ぎるので、常時、剪定している。付き合いは、小波津団地からで、通算 4 5 年ほどになる。

アサヒカズラ (ニトベカズラ)

地面に植えたが、前回紹介したつる植物に圧倒されていたので、4 階ベランダの鉢に移植した。ピンクの花が沢山咲いて、たれさがることを期待している。

ヤハズカズラ? (名前は推定)

数年前に購入した苗を鉢に植えて、玄関脇でそだてていたが、外壁塗装の足場設置のために、4 階ベランダに移した。黄色い花がかわいい。名前を忘れてしまったので、図鑑で調べているが、まだ確定できない。

サンバラソル (マンデビラ属)

2 年前に、苗店で美しく咲いているのをみて、購入し、3 階ベランダで鉢植えし、手すりに這わせている。すごく美しい。ピンクとベージュ色の 2 種が育っている。赤もあったが、うまくいかなかった。

すごく強烈で印象的な花だ。大きい。

ハツユキカズラ

数年前、庭に地植えした。繁殖力旺盛で周辺を占領し、グランドカバーの役目を果たしている。出かけの葉の色が「初雪」の印象だ。その後、色が変わるが、いずれの色も美しい。

つる植物は、繁茂しすぎて管理が大変だが、なじみやすいものが多い。

2021 年 02 月 01 日

シッサス スイカズラ リュウキュウテイカカズラ ニンニクカズラ 我が庭畑の自

然43

つた植物を2回に分けて紹介しよう。

シッサス

観葉植物の図鑑に登場してきたので、これも観葉植物なんだと知った。ツルはどこまでも伸びる。5年ほど前までは、地上から3階までロープをはって、そこを伝わっていた。それで、夕陽さえぎり作戦の一端を担わせていた。でも、繁殖が激し過ぎるので、十分の一ほどに減らした。花は目立たないが、ツルの途中からでてくる赤い気根が美しく、気根カーテンができるほどだ。

スイカズラ (写真)

数年前に購入してきた苗を植えた。ハーブの仲間、薬用食用にもなるというものだから関心をもった。一度ハーブティーに入れてみたが、どうということがないので、その後はしていない。ジャパニーズ・ハニーサックルという英名だそう。生育力があり、シッサスと並んで、上へ上へと伸びている。

リュウキュウテイカズラ

南城市オープンガーデンで見かけた。白い小さい花をいっぱいつけることが印象に残っていたので、数年前に苗店で見つけて植付けた。シッサスとスイカズラと並べて、上へと伸ばしている。



ニンニクカズラ

派手な花が圧倒的に美しい。庭に植えたが、ぐんぐん伸びて、サガリバナをおおう勢いだ。主枝を、ロープで誘導して、外壁に沿わせたが、たくましく伸びている。

年に数回ピンク色の花を大量に咲かせる。存在感があり過ぎるほどだ。ニンニクの匂いがするということだが、気になるほどではない。我が家に来て10年近くになる。

以上の4種が、我が家外壁の南面をおおっていたが、昨秋、外壁塗装のための足場設置で外された。今、再び成長し始めている。夏には全面をおおうだろう。

2021年01月28日

マッコウ 着生らん ホヤ (サクララン)

我が庭畑の自然42



マッコウ (ハリツルマサキ)

自生しており、あちこちから出てくる。岩の上からも、平地からも、直射日光が強い所も日陰からも。49年前、沖縄に来た時に、義兄が盆栽にして大変可愛がっていたが、それ以来好きになった。我が家では、自然に出てきたものを1m余りの高さにおさえて整形している。数十本は育っている。

着生らん

10年ほど前から凝り始めた。ランをいただくことが多くて、花終了後どうするか考えてみた。洋蘭博覧会で習ってきて、着生ランにすることにした。現在十数本を、樹木の枝分かれ個所に着生させている。何年かして、開花することも増えてきた。といっても、植えた時に少し手入れするだけで、後は放りっぱなし状態。

ホヤ (サクララン)

数年以上前に、洋蘭博覧会の売店で購入。ランではないが、似ているし、無数のピンクの花が丸くまとまって咲くのが、素晴らしい。着生ランのように育てている。2株が成功して、年に数回開花する。

2021年01月24日

ラクティア 花キリン コーヒー 我が庭畑の自然41

ラクティア (ユーフォルビア属 マハラジャという名前で流通)

わが庭の中心的位置に座りつつある。7, 8年前に南城市のオープンガーデンで訪れた一つの庭が、我が家の土地を媒介していただいた不動産屋の経営者の方のものだった。懐かしい会話を交わした後、お土産でいただいたのがラクティアだった。

我が家以外で見たことは、先日ホームセンターで販売されていたものが初めてだ。我が家に来た頃は、ウェブでもほとんど情報がなかった。そのうちに情報が出始めて、名前もわかるようになった。最近、ネット販売でも見かけるようになったが、とんでもない価格(数千円以上)に驚いた。この価格だったら、わが庭の物のように、高さ150センチで、枝めいたものが数十本近く出ているものは、いくらになるのだろうか、と思ってしまう。



頂いた時には、高さ30センチくらいだったが、たいした手入れをしないで順調に育っている。枝が沢山出て混みあってきたので、適宜切っているが、切ったものを挿し木すると、なぜか100%根付く。ということで、庭には10本近く育っている。それでも切ったものが余るので、客人に差し上げている。

形の面白さと珍しさで、客人の人気は高い。

花キリン

45年ほど前に西原の小波津団地に住み始めた頃からの付き合いだが、現在は一本だけ、静かに存在している。赤い花が印象的で、茎はサボテンのような感じだ。

コーヒー

これも、我が畑自慢のもので、豆を収穫できるものが3本、幼木が4本育っている。一年に数十杯のコーヒーを自給している。でも、コーヒーとして飲むまでの手間が大いにかかるので、熱がさめつつある。ということで、落ちた実から、たくさん苗がでてきたので、客人に差し上げている。

2021年01月20日

観葉植物10 ザミオクルカス ペディランサス(ダイギンリュウ) リュウゼツラン

柱サボテン 我が庭畑の自然40

ザミオクルカス

いただいたものを地植えしている。図鑑などで調べた結果、この名前であることが判明。しかし、まだ詳しくはわからない。最近、植え替えた場所が、あっているのかぐんぐん成長しているので、挿し木に挑戦している最中だ。不思議な枝葉をしている。



写真の左はペディランサス、右はザミオクルカス

ペディランサス(ダイギンリュウ)

頂いたものを鉢植えや地植えにして育てている。生育力は抜群だ。鉢植えだと、はちきれてしまうので、毎年半分ぐらいカットしている。

観葉植物を続けてきたが、これからは観葉植物なのかそうでないのか、私にはわからないものを並べる。

リュウゼツラン (龍舌蘭)

どなたかから頂いたもの。最初は名前がわからなかったが、ブログ掲載したところ、ある方が教えてくださった。名前を知って、あらためて近隣の御庭を見ると、可愛がって育てている人が多い。15年以上たないと、開花しないそうだが、開花したものを新聞掲載なさった方もおられる。わが庭のものは10年余りなので、開花はまだまだだ。

根元近くから、子どもの株がよく出てくる。株分けして植えてきたので、今は、7～8株が育っている。葉先に鋭いとげがあるので、注意が必要だ。茎？幹？が直立して伸びてくる。

これからが楽しみだ。

柱サボテン

植物交換で、隣人宅から移ってきた。柱サボテンというのは、植物名ではなくて、形を示したものだそう。我が庭のものの名称は不明だが、あちこちで見かけるので、珍しいものではなさそう。

どんどん成長する。台風が来ると、倒れたり折れたりする。それを移植すると、すぐに根付いて大きくなる。現在は、数か所に総計10本ほどが育っている。一番高いものは、2メートル余り。台風があるので、3メートル以上は無理だと思う。

存在感は圧倒的だが、際立って美しいわけではない。でも、わが庭のらせん型ガーデンに中央に鎮座させている。

2021年01月16日

観葉植物9 サンセベリア ハンギング・ヘリコニア セイロンベンケイ セダム 我が庭畑の自然39

サンセベリア (トラノオラン)

わが庭畑に、何百といえるほどの株が育っている。空気をきれいにするマイナスイオンを出すというので、かなり以前から人気が出ている。だから、それなりの価格で売っている。わが庭畑では、雑草扱いに近い。それでもすらっとして、ほぼどんな条件でも育つので、あちこちに植え広がったというわけだ。地下茎でどんどん殖えていくのだ。

自然状態で、高さ1メートルを越すものをみたことがあるが、わが庭畑では数十センチほどだ。細長く伸びる普通の物の他に、短く幅広のものもある。

ハンギング・ヘリコニア

まさに熱帯植物。強烈な赤を中心に黄色が入った花が、高いところからぶら下がってくる。高さは3メートルを越すので、樹木のような草だ。

繁殖し過ぎて、隣のハイビスカスまで覆ってしまった。そこで、先日、半分ほど切った。でもすぐに10以上の新芽が出てくる。一か月もすれば高さ1メートルを



越す。切る作業が追っつかない感じだ。

セイロンベンケイ

2種が生育している。一つは頂いた記憶があるが、もう一つは自生している感じで、知らないうちに広がっている。葉っぱが落ちると、土に近い所から、新しい芽が出てきて広がる。大変強い植物だ。赤い花が印象的。

セダム

以前も植えたことがあるが、失敗した。10年ほど前に買ってきたものは、定着し広がっている。種類が多いが、わが庭のものは、どういう名前か判明していない。

2021年01月12日



観葉植物8 アロエ カランコエ レッ

ドジンジャー コレウス 我が庭畑の自

然38

アロエ

図鑑によると、これも観葉植物だそう。付き合いが長く40年以上になる。薬用に使ってきたが、一番有益だったのは、呼吸器改善のための鼻うがい向け使用だった。

た。

木立アロエ(写真)、ベラ、そして名称不明の鑑賞用のものの三種を育てている。育てるといふより、放りっぱなしにしている。そのため、手入れが必要なベラは消え入りそう。消え入ったかもしれない？

カランコエ

贈り物でよくいただいたが、すべて露地植えにした。1月ごろから長く開花する。赤・黄が多いが、印象的な花だ。多肉植物でもあるようだ。

レッドジンジャー (アルビニア・プルプラタ 月桃の仲間)

これは、他のものと違って、付き合いがまだ一年にもならない。2020年春にいただいたものを植える。すぐに殖え始めたが、今後どうなるのか、どんな花が咲くのか、楽しみにしている。

コレウス

10年位前から育てている。親戚からもらったものが最初だ。すぐに広がる。他のものにくらべれば、たくましさを

誇るよりも、優しさを誇る感じだ。そんなこともあって、知らぬ間に消えてしまうこともある。現在は、黄色い一種を育てている。

2021年01月08日

観葉植物7 ディフェンバキア ポリッシュヤス モンテスラ 我が庭畑の自然37

今朝も9.6度。寒さで、葉がやられなければと願う。

今回は、樹木にはならないが、大きく伸びて樹木のような雰囲気を見せるもの

ディフェンバキア

頂き物を地植えしたが、繁殖力旺盛。挿し木で簡単に殖えるので、現在20～30本ぐらいだろうか。

緑の茎?と大きなまだら模様の葉が美しい。とてもよみかけるものだ。美しく、育てやすいから、そうなるだろう。

写真は、群生状態だ。雨天の早朝撮影で、見にくいが。



ポリッシュヤス

苗店で、10センチほどの可愛らしいものを売っていたので、いくつも買ってきた。大きくなってきたので、露地植えにしたら、結構育ってきた。数種類が育っている。図鑑には登場しないが、私の独断?で観葉植物とした。

モンテスラ

数十センチ以上の大型の葉に大きな切れ込みがいくつも入るユニークさで、人気が高まっている。大きい葉のある鉢物は、かなりの値段だ。数年前に一つ買ってきて、地植えした。ぐんぐん成長してきたので、上から数枚を切り取って挿し木している。現在、数本を育てている。

モンテスラ・マドカズラ

苗店でみつけたものだが、ポトスのような葉に、モンテスラに似た切れ込みがあり、「窓」のように見えるから、名前がついたらしい。図鑑で調べていて、モンテスラの仲間であることに気づいた。ただし、葉の大きさがまるで違う。10センチぐらいだ。

2021年01月03日

観葉植物6 アグラオネマ キキョウラン オリズルラン ペペロミア ポトス 我が庭畑の自然36

今回も、地上近くで広がり日陰でも育つもの。

アグラオネマ

シルバー（下写真）とレッド（上写真）数本を育てている。レッドが可愛らしい。

キキョウラン

キキョウのように紫色の花だから、名づけられたのだろう。花はとても小さいが、葉はスラッと長く伸びる。



オリズルラン

わが庭畑に、まさに蔓延している。長いツルが出てきて、先に花を咲かせながら根が伸びてきて、着地し広がる。繁殖力旺盛で雑草の勢いがあるが、かなり美しい。空中にも広がる感じさえある。

根に栄養分を蓄えるようで、太った根をたくさん垂らしている。

ペペロミア（オプッシフォリア）

丸い肉厚な葉が印象的。固めてたくさん育てている。挿し木で殖やしていくつもりだ。樹木が広がって日陰が

多くなった地面付近に、こうした観葉植物を広げる作戦だ。グランドカバーのようなものだ。

ポトス

本州に住んでいる頃は、可愛らしくていいなあと思っていた。でも、ここに住んでみると、育てるものではないな、と思う。どうやって減らすかに苦労するからだ。木をよじ登って、日当たりがよくなると、一枚の葉が30センチを越すほど巨大になる。亜熱帯雰囲気を作り過ぎるのだ。だから、いまでは、見つけ次第取ってしまう状態に近い。

